

# 島原市統計ハンドブック



令和2年3月

島原市



島原市公式キャラクター  
『島原守護神しまばらん』

## はじめに

本ハンドブックは、島原市の自然、人口、経済、観光、福祉、教育など各分野にわたる基本的な統計資料を収録し、島原市の現状と推移を明らかにするとともに、隣接する雲仙市、南島原市を含んだ島原半島3市（以下「半島3市」という。）の比較や、島原市が長崎県及び半島3市の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、現代的課題を客観的に見つめ直し、今後の市政の推進に役立てようとするものです。

また、島原市の特色あるデータを収集し、島原の魅力を再確認するとともに、島原を訪れるあらゆる人たちへの情報提供など、幅広く利用できることを目的としております。

## 使用上の注意

計数については、単位未満を四捨五入で表示しているため、総数と内訳の合計が一致しない場合があります。このため、表間においても、数値が一致しない場合がありますのでご注意ください。

人口対比については、統計データの抜粋及び特に指示をしている場合を除き、令和元年12月31日の住民基本台帳人口（以下「住基人口」という。）により算出しています。

## 目 次

1. 土地、自然	統計資料名	頁
(1) 島原市の位置	国土地理院 長崎県 市区町村の役所・役場及び東西南北端点の経度緯度(世界測地系)	1
(2) 島原市の主な山	国土地理院 長崎県の主な山岳標高	1
(3) 島原市の主な河川	2019 島原半島要覧	1
(4) 島原市の面積 「※参考 島原市の地日別土地面積」	国土地理院 全国都道府県市区町村別面積調 税務課資料 平成31年度土地に関する概要調査等報告書	2
(5) 道路延長	道路課資料	2
<b>2. 人口、世帯</b>		
(1) 島原市の人口と世帯の状況	市民窓口サービス課資料 年齢別人口統計表	3
(2) 長崎県及び半島3市における島原市の総人口と世帯の状況	平成27年 国勢調査	5
(3) 島原市の産業別就業人口の状況		8
(4) 長崎県及び半島3市における島原市の産業別就業人口の状況	平成27年 国勢調査	9
(5) その他の人口に関する資料	平成27年 国勢調査 ・市民窓口サービス課資料	12
<b>3. 産業・経済</b>		
(1) 島原市の経済活動別総生産額		
(2) 長崎県及び半島3市における島原市の総生産額の状況	平成28年度 市町民経済計算	14
(3) 卸売業、小売業	平成28年 経済センサスー活動調査	16
(4) 製造業	平成30年 工業統計調査	22
(5) 農業	平成28年 市町民経済計算	26
(6) 林業	2015年 農林業センサス	29
(7) 水産業	2018年 漁業センサス 平成28年 市町民経済計算	30
(8) 島原市の主な農水産物の出荷量、産出量	第65次長崎農林水産統計年報	32
<b>4. 観光</b>		
(1) 観光客数	しまばら観光おもてなし課資料	33
(2) 公共交通機関利用状況	政策企画課、道路課 (島原市観光客実態調査)資料	34
(3) 各観光施設の入場者等の状況	しまばら観光おもてなし課資料	35
(4) 文化財の観光客の状況	社会教育課資料	37
(5) イベント実施状況	しまばら観光おもてなし課、しまばらブランド営業課、産業政策課、スポーツ課、各課資料	38
(6) 温泉施設の利用状況	しまばら観光おもてなし課、有明支所資料	40
(7) 島原の特産品、郷土料理	農林水産課、しまばらブランド営業課、各課資料	42

<b>5. 社会福祉、保健、環境</b>		
(1) 生活保護の状況	福祉課資料 長崎県生活保護速報	45
(2) 保育園・幼稚園の状況	こども課資料	45
(3) 医療の状況	福祉課資料 医療施設調査 医師・歯科医師・薬剤師調査	46
(4) ゴミの状況	環境課資料 一般廃棄物処理実態調査	47
<b>6. 教育、文化</b>		
(1) 小学校の状況	教育総務課資料 教育統計調査報告	48
(2) 中学校の状況		
(3) 高等学校の状況		49
(4) 特別支援学校の状況		
(5) 図書館の状況	社会教育課資料 県内市町立図書館等の状況(長崎県立長崎図書館ホームページ)	50
(6) 文化財の状況	社会教育課資料	51
<b>7. 市民生活</b>		
(1) 居住、安全	平成31年度版「消防年報」 平成30年「交通統計」	52
(2) 水道	水道課資料	52
(3) 町内会・自治会	秘書人事課資料	53
<b>8. 財政</b>		
(1) 島原市の歳入、歳出の状況	島原市決算の概要、財政状況より(島原市決算カード)	54
(2) 島原市の地方債、積立金の状況		55
(3) 各種指数		57
(4) 平成30年度決算内訳の比較		58
<b>9. 市政の状況</b>		
(1) 国、県の指定状況		60
(2) 今後予定されている大型事業		60
<b>10. 我がまち自慢</b>		
(1) 島原市の日本一、日本初など		61
(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など		62
(3) その他		63

# 1. 土地、自然

## (1) 島原市の位置

### ① 島原市の東西南北端点

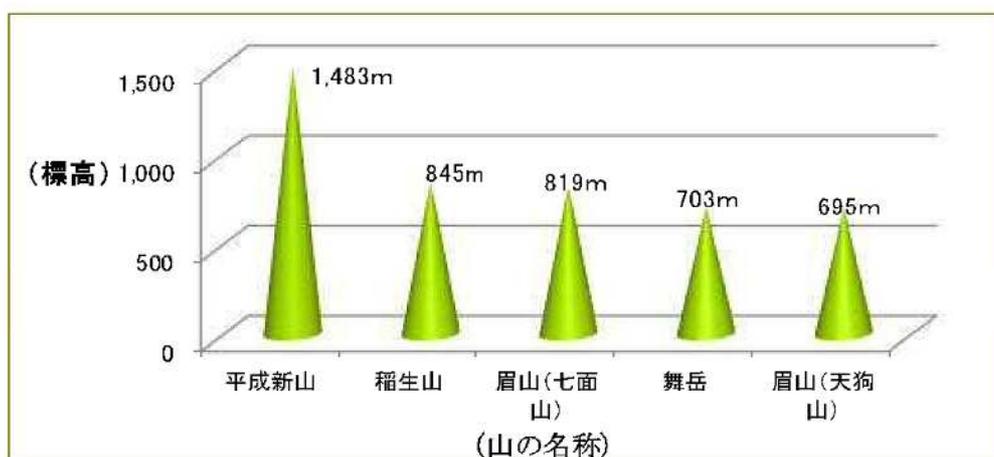
東端	北緯32度46分18秒	東経130度23分13秒
西端	北緯32度46分21秒	東経130度16分23秒
南端	北緯32度44分14秒	東経130度22分25秒
北端	北緯32度52分01秒	東経130度19分13秒

### ② 市役所（本庁舎）の位置

北緯 32度47分17秒

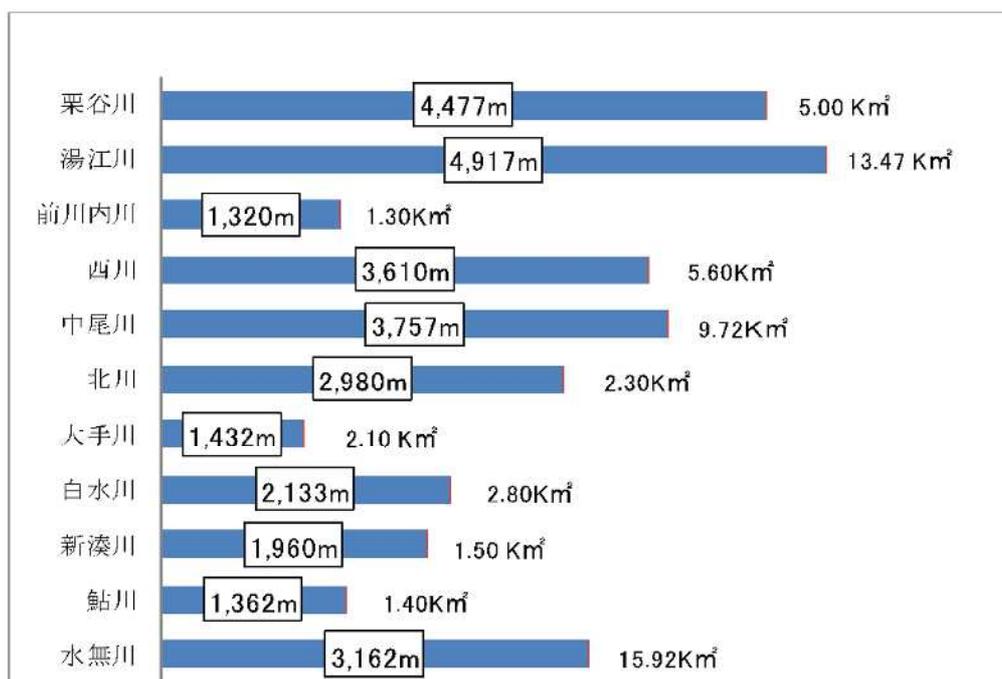
東経 130度22分14秒

## (2) 島原市の主な山（標高の高い順に記載）



## (3) 島原市の主な河川（北側から順に記載）

(単位：河川延長m、流域面積km<sup>2</sup>)



(4) 島原市の面積

	面積 (km <sup>2</sup> )	島原半島における割合 (%)	長崎県における割合 (%)
島原市	82.96	17.8	2.0
雲仙市	214.31	45.9	5.2
南島原市	170.11	36.4	4.1
半島3市	467.38	100.0	11.3
長崎県	4,131.00		

参考：島原市の地目別土地面積（※但し、国有林、里道、水路の地積を除く）  
 (単位：㎡)



(5) 道路延長 (平成31年4月1日現在)

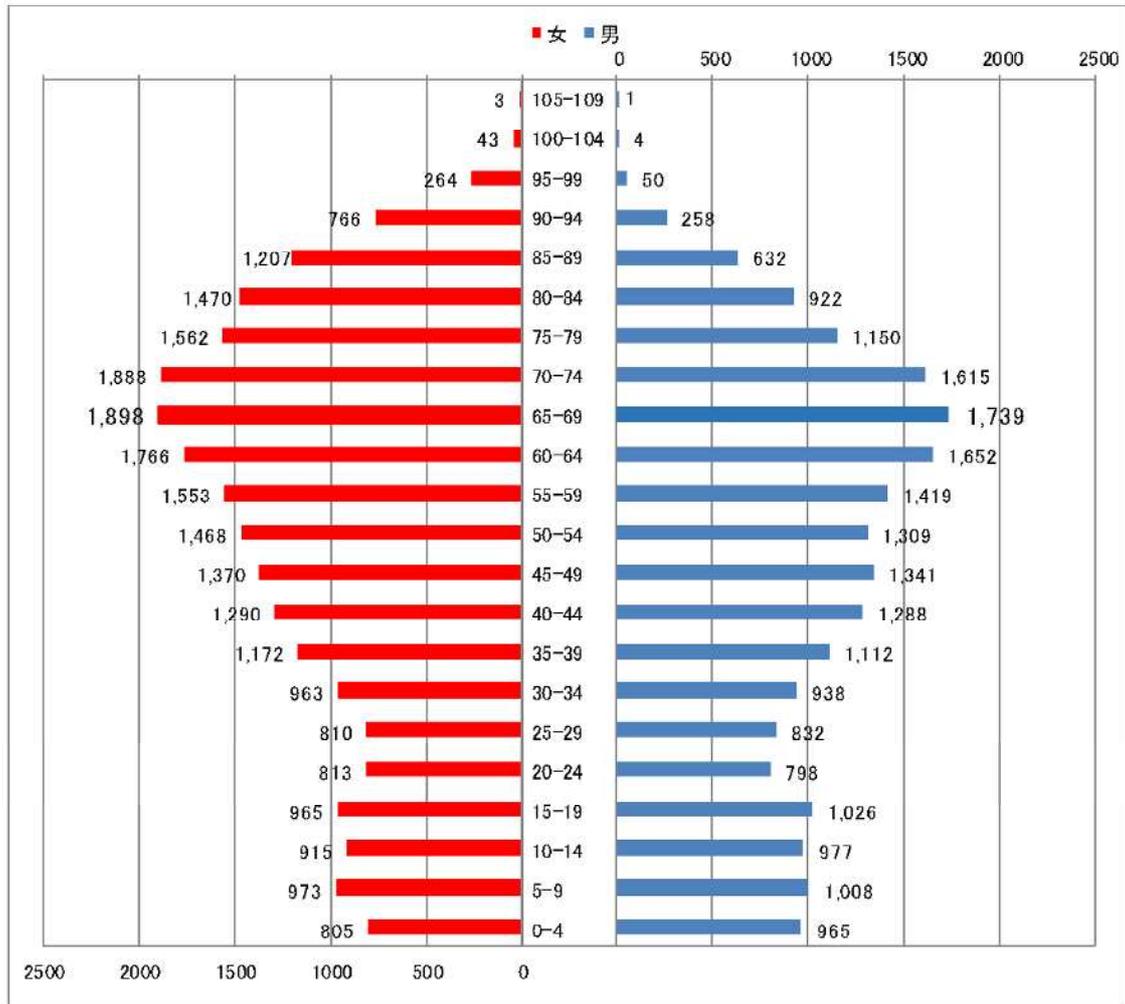
島原市内の市道総延長 542,399m  
 島原市内の県道総延長 39,878m  
 島原市内の国道総延長 28,912m (国道57号 3,620m 251号 25,292m)

## 2. 人口、世帯

### (1) 島原市の人口と世帯の状況

#### ① 年齢区分ごとの男女別人口

(単位：人)



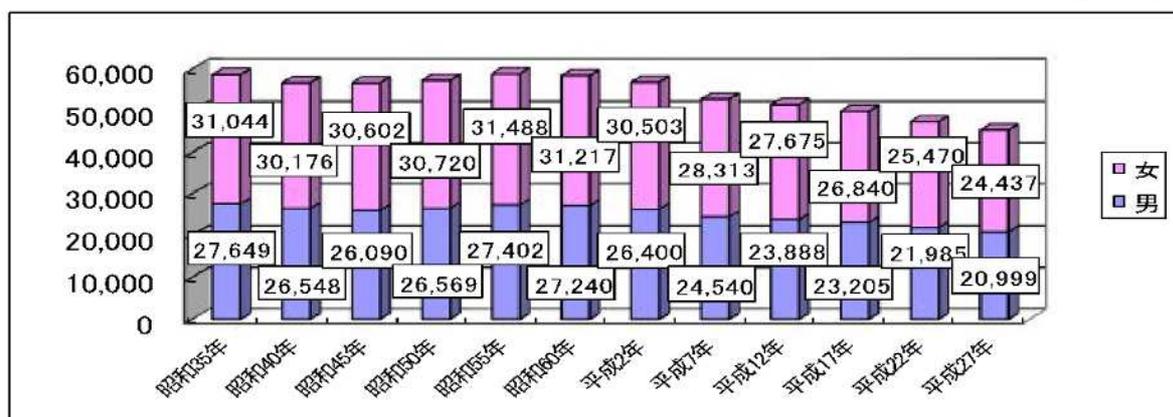
年齢区分	人口(単位:人)
100歳以上	51
80～99歳	5,569
60～79歳	13,270
40～59歳	11,038
20～39歳	7,438
0～19歳	7,634
合計	45,000

年齢区分ごとの人口は、20年代ごとに区分した場合、60～79歳の人口が一番多く、若くなるに従って少なくなっている。

また、20～24歳の人口が少なくなっているが、これは高校卒業後の若者の流出が要因であると考えられる。

② 男女別人口の推移

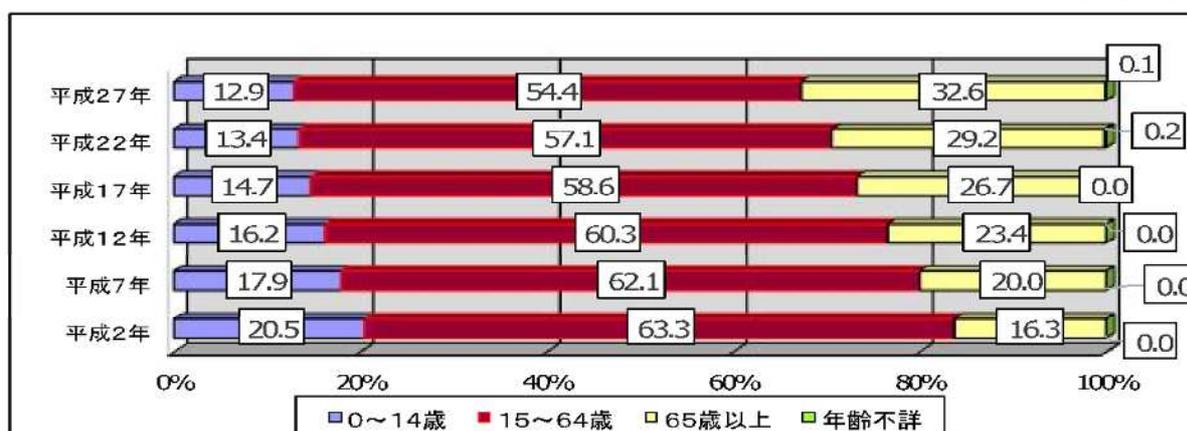
(単位：人)



男女とも人口は、昭和55年（1980年）をピークとして減少している。

③ 年齢区分別人口割合の推移

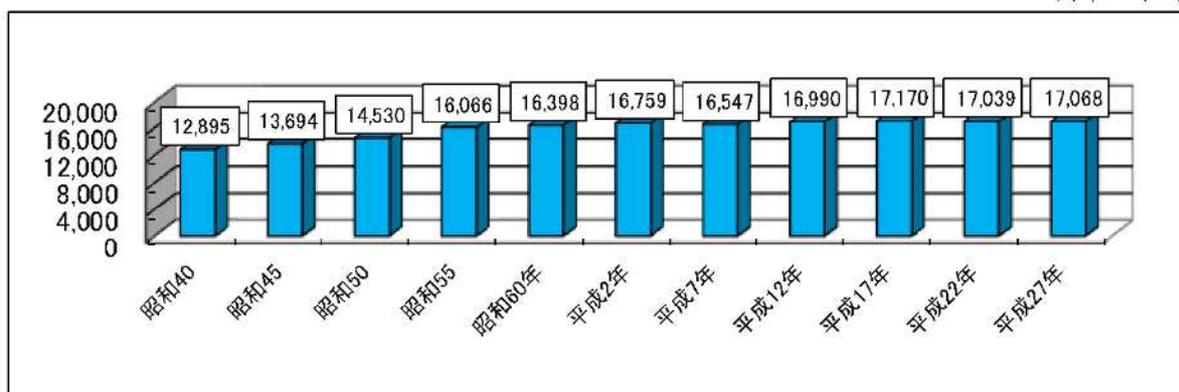
(単位：%)



0～14歳の人口は急激に減少し、65歳以上の人口は急激に増加している。

④ 世帯数の推移

(単位：世帯)

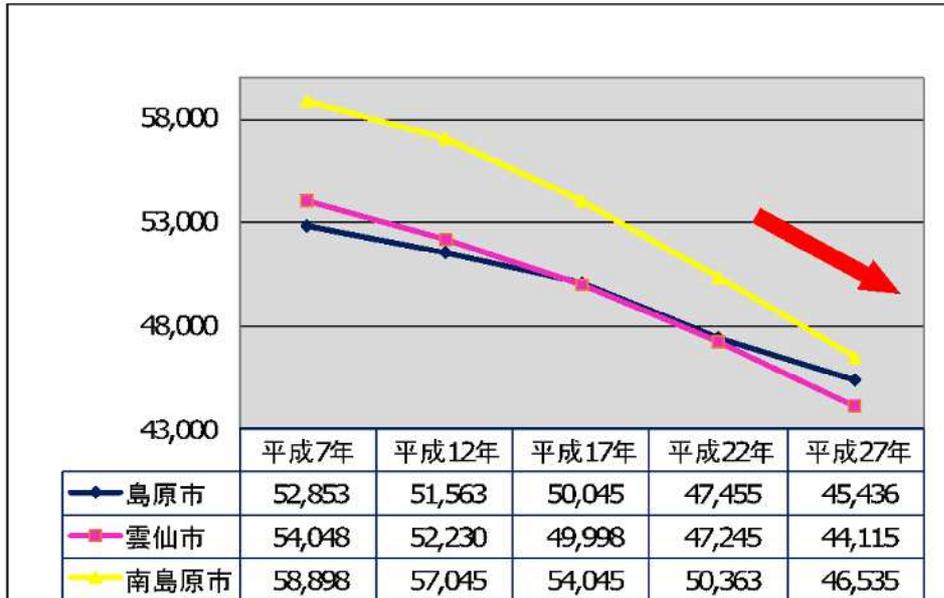


島原市では、人口が減少しているが、世帯数は増加の傾向にある。

(2) 長崎県及び半島3市における島原市の総人口と世帯の状況

① 人口の推移

(単位：人)



半島3市の総人口は、減少傾向にあるが、その中でも島原市の人口減少率は、最も低い。

(参考)

島原市の住基人口

45,000人(令和元年12月末)

【人口の割合】

(単位：人)

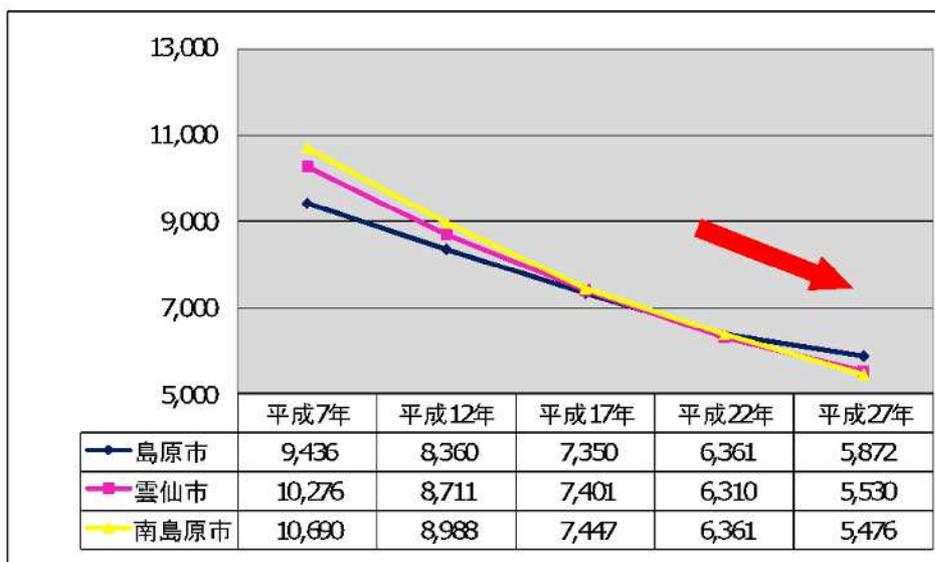
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	1,544,934	1,516,523	1,478,632	1,426,779	1,377,187
島原市の割合	3.4%	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%
半島3市	165,799	160,838	154,088	145,063	136,086
島原市の割合	31.9%	32.1%	32.5%	32.7%	33.4%

半島他2市より、本市は人口減少率が鈍化している。

② 年齢区分別にみた人口の推移

【0～14歳の人口の推移】

(単位：人)



半島3市の人口は、急激に減少しているが、平成7年と平成27年の3市の順位を比較すると逆転現象が生じている。

(参考)

島原市の住基人口

5,643人(令和元年12月末)

【0～14歳の人口の割合】

(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	277,263	243,046	215,987	193,428	177,562
島原市の割合	3.4%	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%
半島3市	30,402	26,059	22,198	19,032	16,878
島原市の割合	31.0%	32.1%	33.1%	33.4%	34.8%

半島3市における島原市の割合は、1.4%増加している。

【15～64歳の人口推移】

(単位：人)



半島3市の人口は、共に減少している。

(参考)

島原市の住基人口

23,885人(令和元年12月末)

【15～64歳の人口割合】

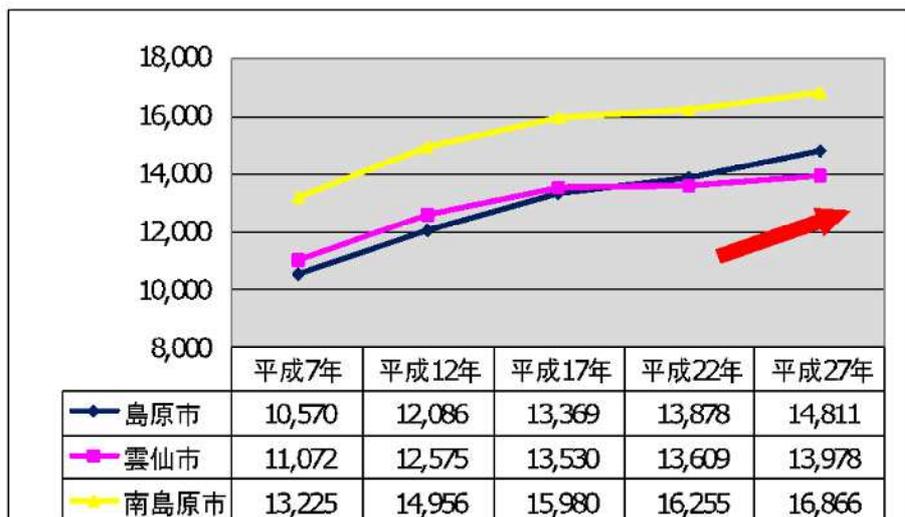
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	993,783	956,692	913,224	857,416	784,862
島原市の割合	3.3%	3.3%	3.2%	3.2%	3.1%
半島3市	100,495	95,160	89,007	82,140	73,396
島原市の割合	32.7%	32.7%	32.9%	33.0%	33.7%

島原市の割合は、長崎県内では減少傾向だが、半島3市ではわずかに増加傾向にある。

【65歳以上の人口推移】

(単位：人)



半島3市の人口は、共に増加している。

(参考)

島原市の住基人口

15,472人(令和元年12月末)

【65歳以上の人口割合】

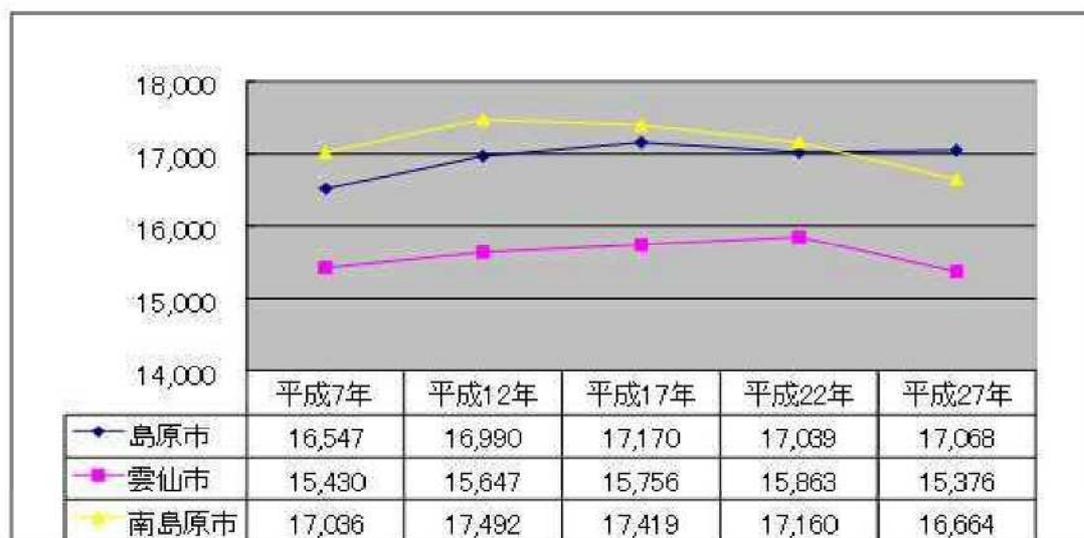
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
<b>長崎県</b>	<b>273,335</b>	<b>315,871</b>	<b>348,820</b>	<b>369,290</b>	<b>404,686</b>
島原市の割合	3.9%	3.8%	3.8%	3.8%	3.7%
<b>半島3市</b>	<b>34,867</b>	<b>39,617</b>	<b>42,879</b>	<b>43,742</b>	<b>45,655</b>
島原市の割合	30.3%	30.5%	31.2%	31.7%	32.4%

半島3市における島原市の割合は、増加している。

③ 世帯数の推移

(単位：世帯)



世帯数は、ほぼ横ばいであるが、総人口が減少傾向にある。

【世帯数の割合】

(単位：世帯)

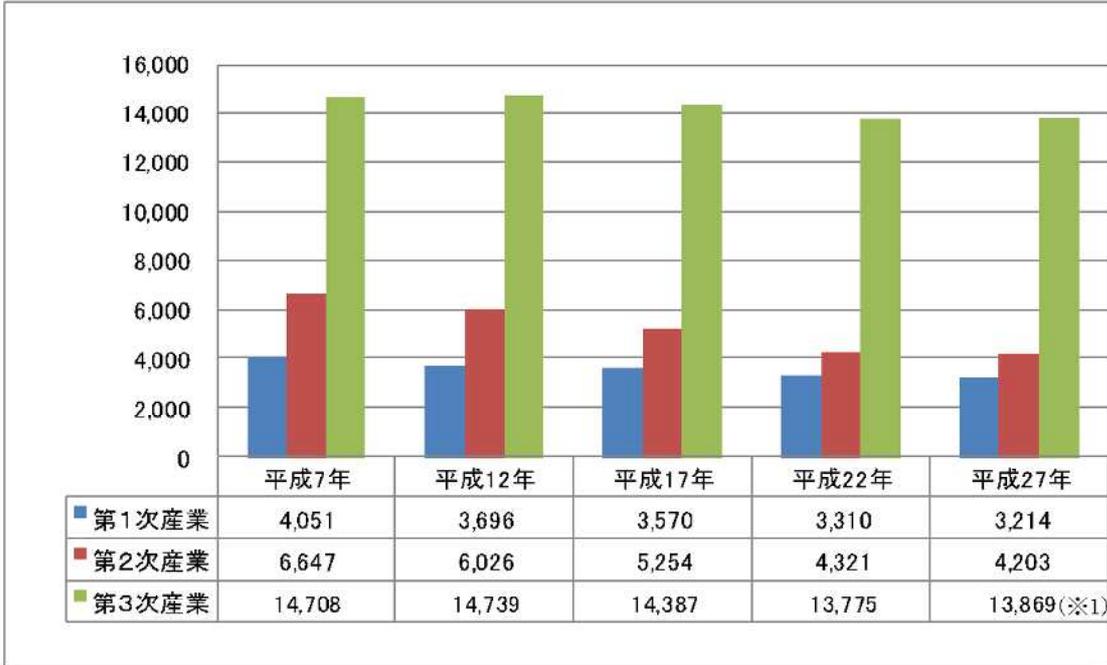
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
<b>長崎県</b>	<b>529,872</b>	<b>544,878</b>	<b>553,620</b>	<b>558,660</b>	<b>560,720</b>
島原市の割合	3.1%	3.1%	3.1%	3.0%	3.0%
<b>半島3市</b>	<b>49,013</b>	<b>50,129</b>	<b>50,345</b>	<b>50,062</b>	<b>49,108</b>
島原市の割合	33.8%	33.9%	34.1%	34.0%	34.8%

半島3市における島原市の割合は、わずかに増加している。

(3) 島原市の産業別就業人口の状況

① 人口の推移

(単位:人)

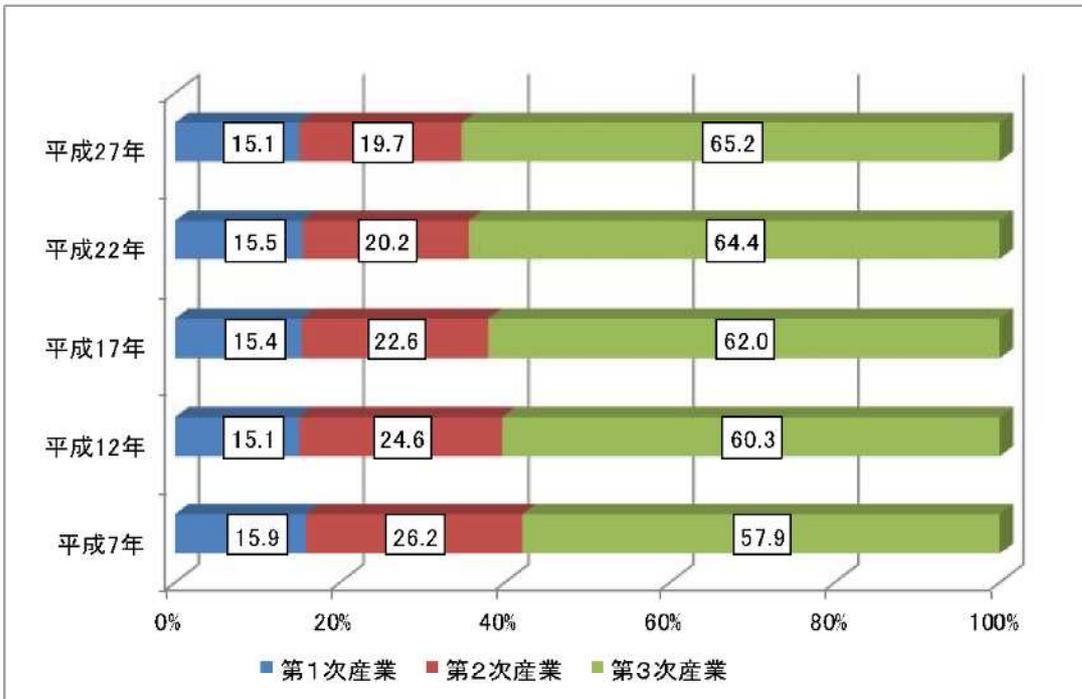


就業人口は、各産業とも減少している。

(※1) 上記数値には「分類不能産業」が未算入のため、11頁の合計と合わない。

【就業人口の構成比の推移】

(単位:%)



人口構成比の推移をみると、第1次産業は横ばい、第2次産業は減少、第3次産業は増加している。

② 産業分類別就業人口の推移

(単位：人)

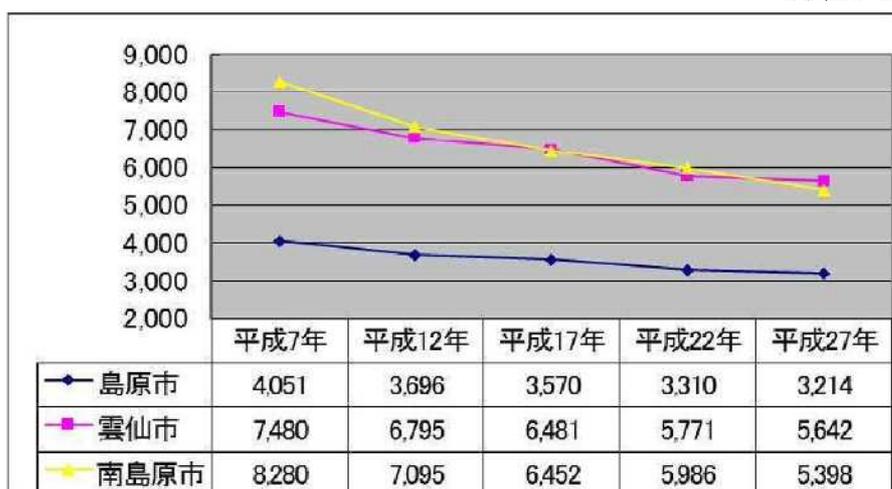
産業分類	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
農業	3,371	3,173	3,116	2,956	2,917
林業	15	11	13	14	9
漁業	665	512	441	340	288
第1次産業計	4,051	3,696	3,570	3,310	3,214
鉱業	4	5	7	1	-
建設業	2,825	3,037	2,513	1,920	1,817
製造業	3,818	2,984	2,734	2,400	2,386
第2次産業計	6,647	6,026	5,254	4,321	4,203
電気・ガス・水道	97	107	78	71	79
運輸・通信業	1,146	992	800	909	800
卸売・小売	5,543	5,550	3,272	3,598	3,088
宿泊業、飲食サービス業	(宿泊：サービス業に、飲食店；卸・小に含まれる)	(宿泊：サービス業に、飲食店；卸・小に含まれる)	1,114	1,210	1,188
金融保険業	517	466	407	358	360
不動産業	73	66	68	127	131
医療・福祉	(下欄に含まれる)	(下欄に含まれる)	3,101	3,407	3,814
サービス業	6,345	6,663	3,788	3,287	3,583
公務・その他	987	895	817	808	826
第3次産業計	14,708	14,739	13,445	13,775	13,869

島原市では、第1次産業、第2次産業が減少し、第3次産業については、平成17年に減少したが、それ以降増加傾向にある。

(4) 長崎県及び半島3市における島原市の産業別就業人口の状況

① 第1次産業人口の推移

(単位：人)



半島3市の人口は、共に減少している。  
島原市の減少の主な要因は、農業・漁業を営む人が減っているためである。

【第1次産業人口の割合】

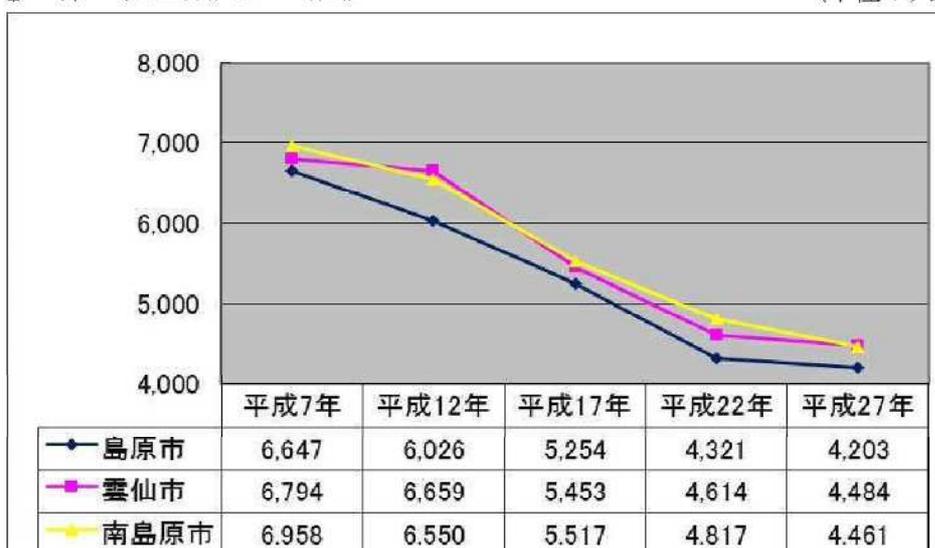
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	80,544	67,198	62,011	51,695	47,812
島原市の割合	5.0%	5.5%	5.8%	6.4%	6.7%
半島3市	19,811	17,586	16,503	15,067	14,254
島原市の割合	20.4%	21.0%	21.6%	22.0%	22.5%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、増加傾向にある。

② 第2次産業人口の推移

(単位：人)



半島3市の人口は、共に減少している。  
島原市の減少の主な要因は、建設業及び製造業を営む人が減っているためである。

【第2次産業人口の割合】

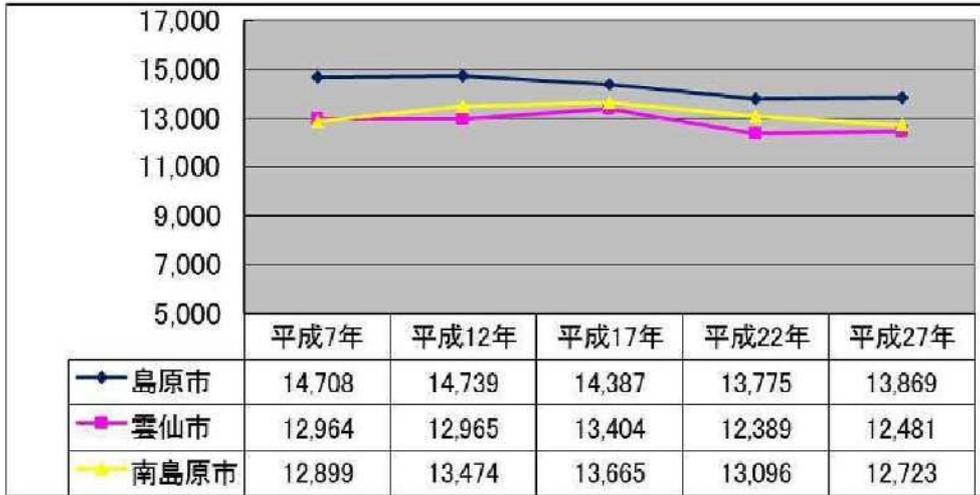
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	179,102	165,956	140,390	127,183	125,674
島原市の割合	3.7%	3.6%	3.7%	3.4%	3.3%
半島3市	20,399	19,235	16,224	13,752	13,148
島原市の割合	32.6%	31.3%	32.4%	31.4%	32.0%

島原市の割合は、長崎県内で減少、半島3市では横ばいの傾向にある。

③ 第3次産業人口の推移

(単位：人)



半島3市の人口は減少傾向にあるが、平成22年以降は島原市と雲仙市がわずかに増加に転じている。

島原市が増加した要因は、医療・福祉事業従事者が増えたためである。

【第3次産業人口の割合】

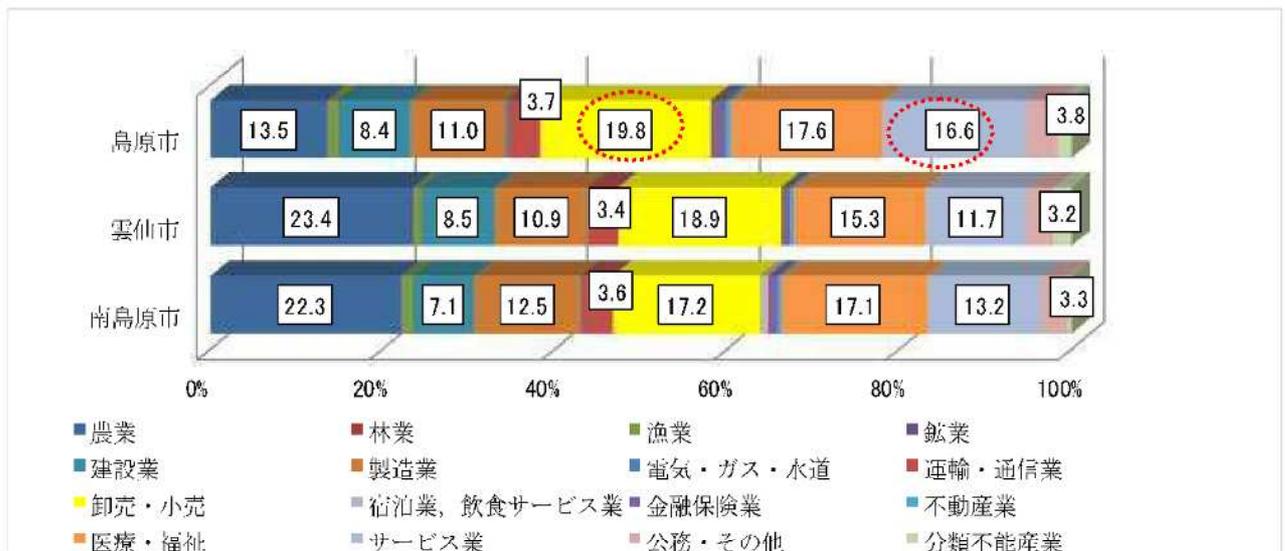
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	465,119	466,197	473,801	450,757	450,488
島原市の割合	3.2%	3.2%	3.0%	3.1%	3.1%
半島3市	40,596	41,195	41,525	39,260	39,073
島原市の割合	36.2%	35.8%	34.6%	35.1%	35.5%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、横ばいとなっている。

④ 産業分類別人口の状況

(単位：%)



(産業分類別人口の割合については、主なもののみ数値を掲載)

半島3市の中で、島原市は、卸売・小売やサービス業の就業人口の占める割合が高く、農業の就業人口の割合が低いことがわかる。

【島原市の産業分類別人口の状況】

(単位：人)

項目	島原市	雲仙市	南島原市
農業	2,917	5,400	5,065
林業	9	24	11
漁業	288	218	322
鉱業	-	2	5
建設業	1,817	1,971	1,614
製造業	2,386	2,511	2,842
電気ガス水道	79	34	42
運輸通信業	800	778	821
卸・小売業	3,088	2,848	2,900
宿泊業、飲食サービス業	1,188	1,518	1,001
金融保険業	360	233	260
不動産業	131	102	83
医療・福祉	3,814	3,527	3,866
サービス業	3,583	2,706	3,001
公務・その他	826	735	749
分類不能産業	351	489	84
合計	21,637	23,096	22,666

半島3市の中で、島原市は、電気ガス水道、金融保険業、不動産業、サービス業、公務・その他の就業人口が一番多い。

(5) その他の人口に関する資料

① 一般世帯（※1）における1世帯当たり世帯人員の推移

(単位：人)

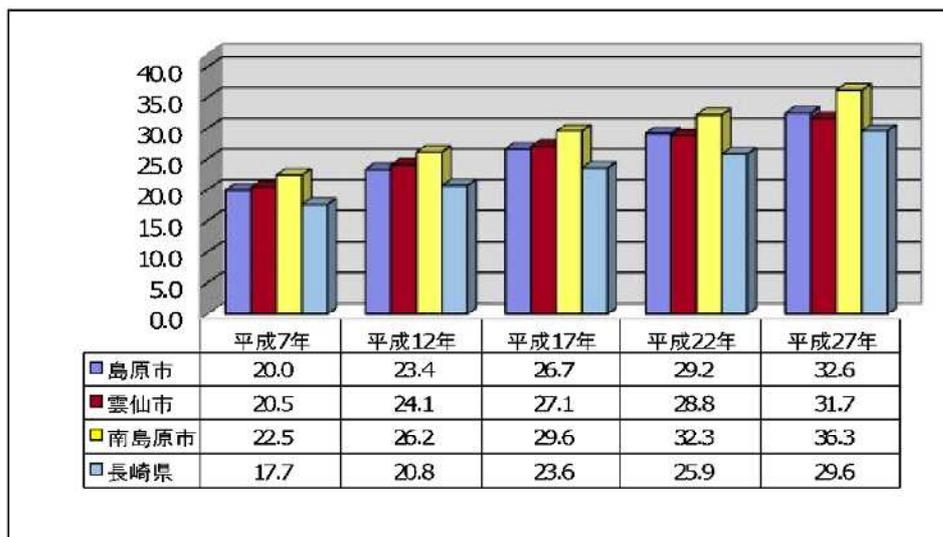


島原市の世帯人員は、半島3市の中では一番少なく、長崎県と比較すると多い。

(※1)一般世帯とは、老人ホームなどの社会施設等を除いたもの。

② 高齢化率の推移

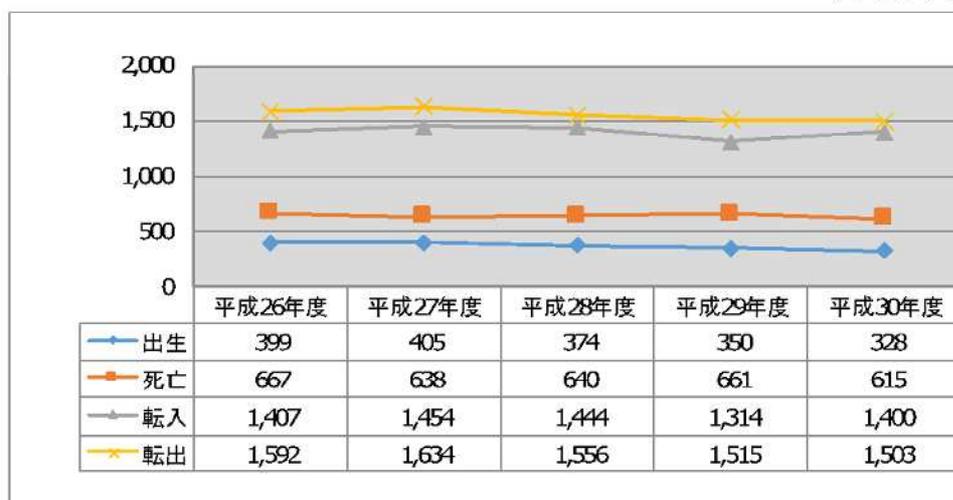
(単位：%)



半島3市の高齢化率は、共に高くなっており、平成27年には高齢化率が約3割となった。

③ 島原市の異動人口の推移

(単位：人)

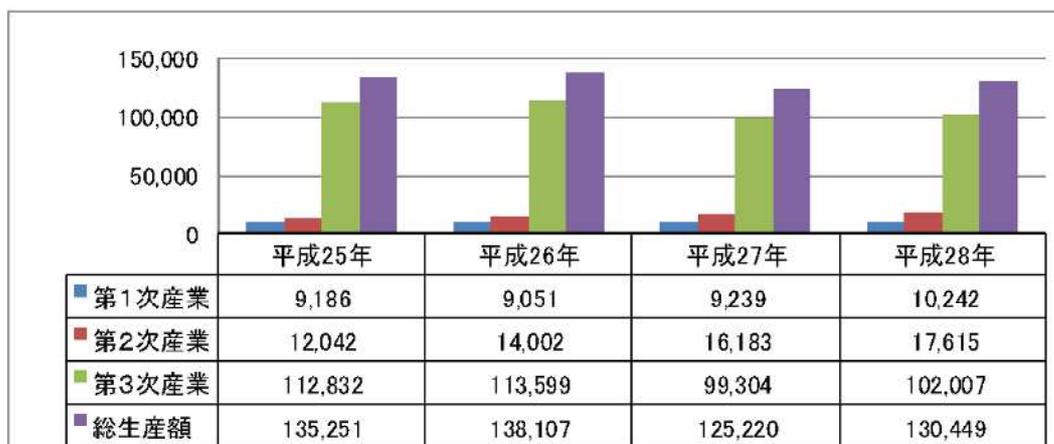


島原市は、出生より死亡、転入より転出が多い状態が続いている。平成30年度は転入がわずかに増加した。

### 3. 産業・経済

#### (1) 島原市の経済活動別総生産額（＝島原市の経済の規模などを明らかにする指標）

（単位：百万円）

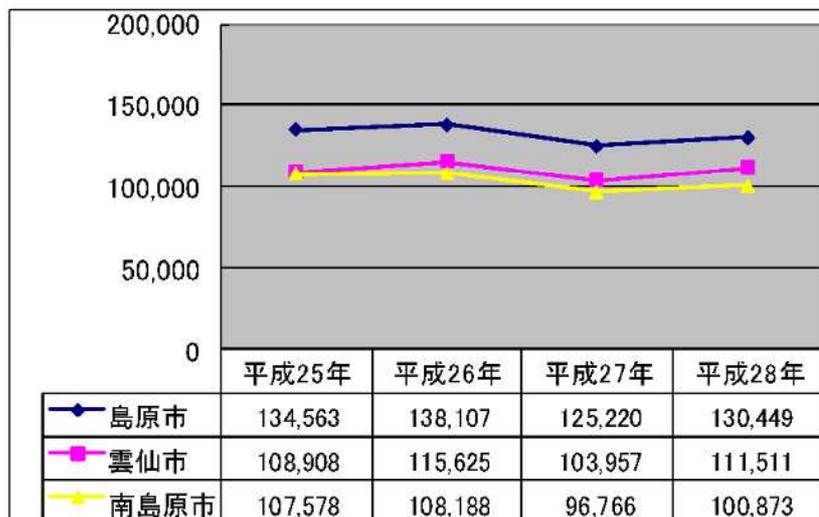


第1次～3次産業の生産額増により、総生産額は平成27年に比べ、平成28年は約4%増加した。（※ 総生産額は「輸入品に課される税・関税等」を差し引いた額であるため、第1次産業から第3次産業までの合計とは一致しない。）

#### (2) 長崎県及び半島3市における島原市の総生産額の状況

##### ① 総生産額の推移

（単位：百万円）



半島3市の総生産額は、平成27年と平成28年を比較すると、共に約4～7%増加している。

##### 【総生産額の割合】

（単位：百万円）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
長崎県	4,367,240	4,310,310	4,382,214	4,566,162
島原市の割合	3.1%	3.2%	2.9%	2.9%
半島3市	351,049	361,920	325,943	342,833
島原市の割合	38.3%	38.2%	38.4%	38.1%

島原市の割合は、長崎県内、半島3市で横ばい状態が続いている。

② 産業分類別総生産額

【総生産額の比較】

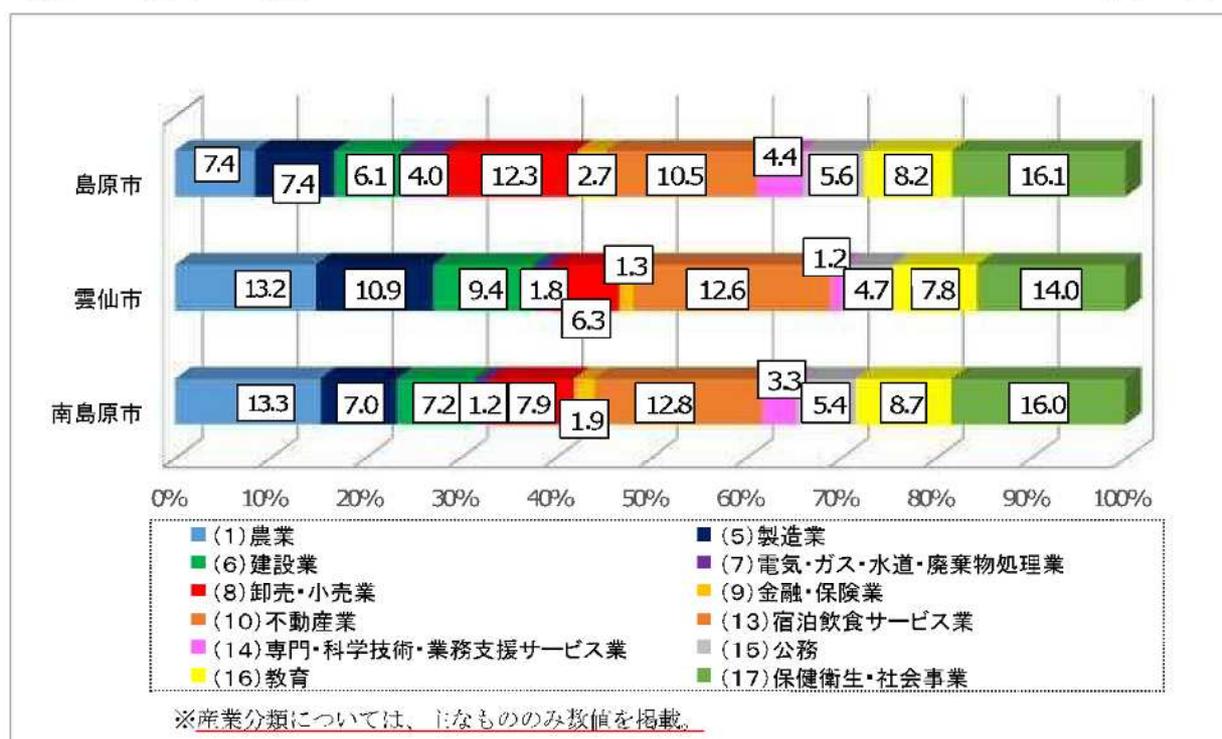
(単位：百万円)

項目	島原市	雲仙市	南島原市
(1) 農業	9,666	14,681	13,452
(2) 林業	323	1,058	833
(3) 水産業	252	1,091	340
(4) 鉱業	-	-	555
(5) 製造業	9,645	12,204	7,038
(6) 建設業	7,969	10,487	7,247
(7) 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	5,201	1,990	1,200
(8) 卸売・小売業	16,015	6,975	7,932
(9) 金融・保険業	3,542	1,407	1,895
(10) 不動産業	13,662	14,006	12,962
(11) 運輸・郵便業	6,327	3,759	5,547
(12) 情報通信業	963	1,106	159
(13) 宿泊飲食サービス業	4,304	6,606	2,405
(14) 専門・科学技術・業務支援サービス業	5,712	1,344	3,315
(15) 公務	7,290	5,241	5,434
(16) 教育	10,641	8,665	8,806
(17) 保健衛生・社会事業	20,956	15,565	16,141

半島3市の中で、島原市は、電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、金融・保険業、専門・科学技術、保健衛生、社会事業の生産額が一番多いことがわかる。

【総生産割合の比較】

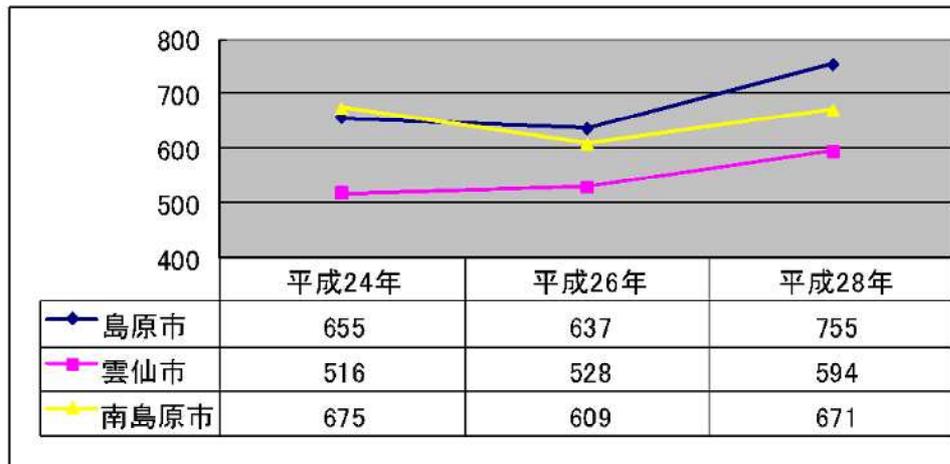
(単位：%)



### (3) 卸売業、小売業

#### ① 事業所数の推移

(単位：事業所)



半島3市の事業所数は、共に平成26年から28年にかけて、増加に転じている。

#### 【事業所数の割合】

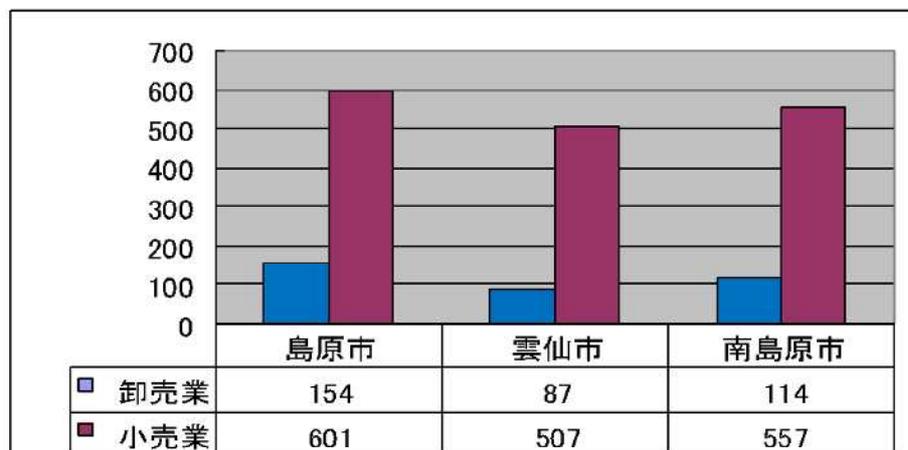
(単位：事業所)

	平成24年	平成26年	平成28年
長崎県	14,384	14,231	17,542
島原市の割合	4.6%	4.5%	4.3%
半島3市	1,846	1,774	2,020
島原市の割合	35.5%	36.0%	37.4%

島原市の割合は、半島3市では増加している。

#### 【事業所数の比較】

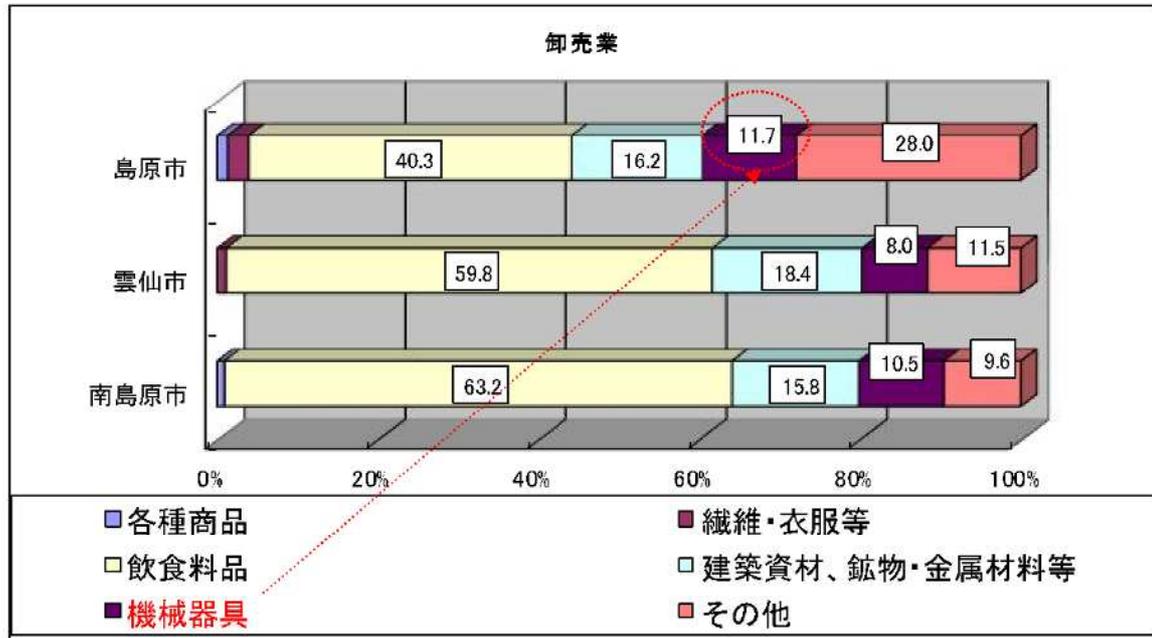
(単位：事業所)



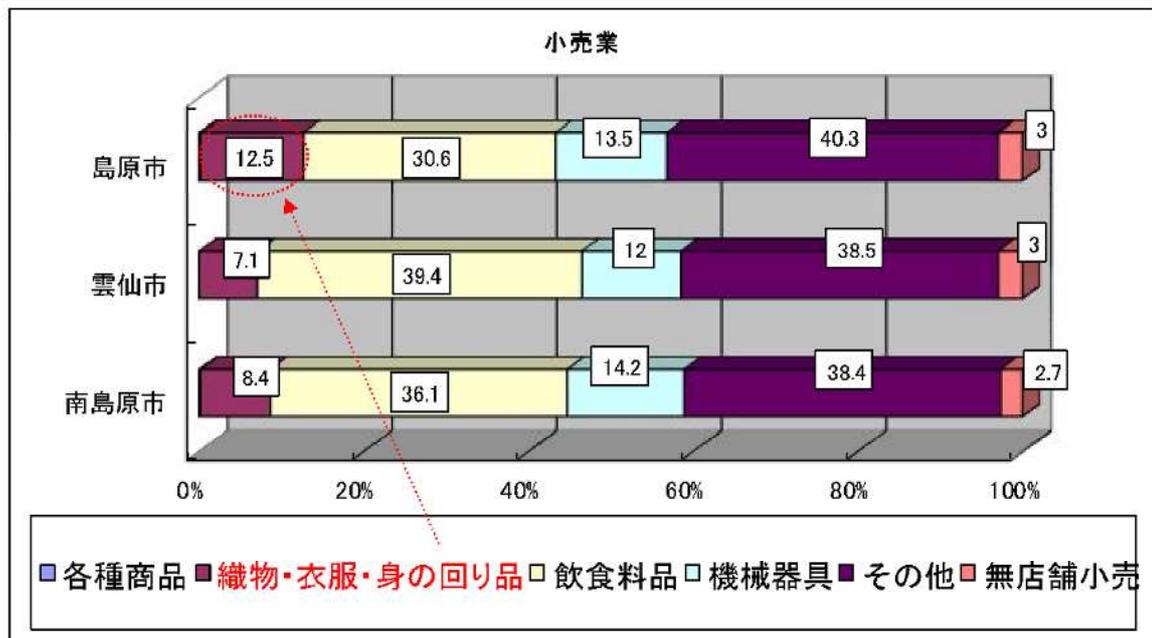
島原市は、卸売業の事業所数が一番多い。

【業種別事業所数の割合】

(単位：%)



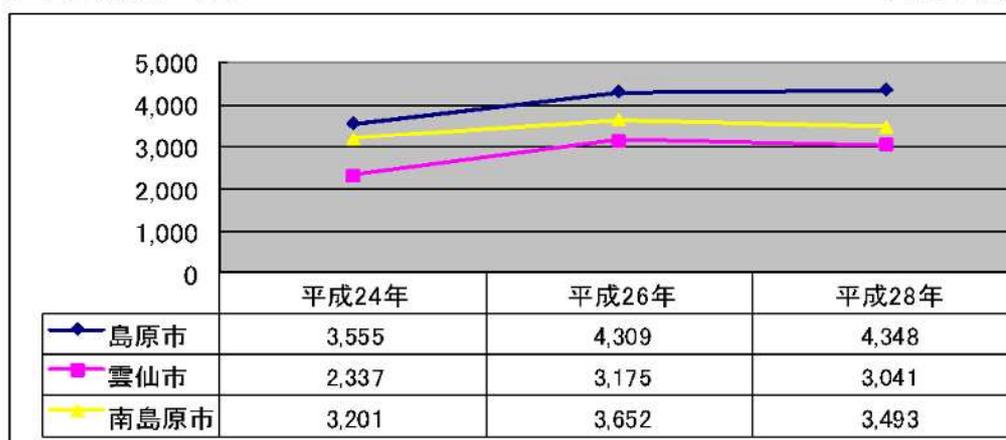
(単位：%)



島原市は、卸売業については、機械器具の占める割合が、小売業については繊維・衣服・身の回り品の占める割合が一番高い。

② 従業者数の推移

(単位：人)



平成26年から平成28年にかけて、半島3市の中の従業者数は、島原市だけが増加に転じている。

【従業者数の割合】

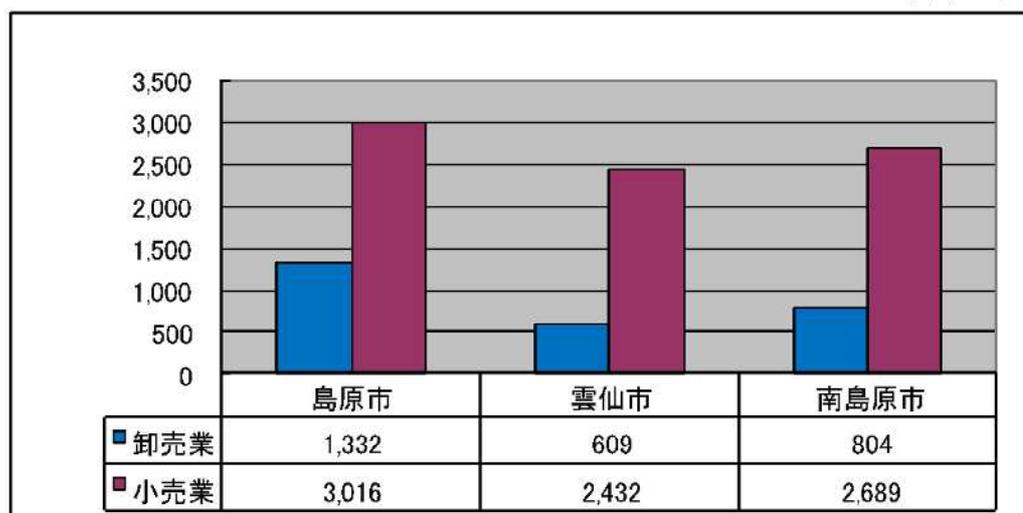
(単位：人)

	平成24年	平成26年	平成28年
長崎県	87,291	90,933	113,314
島原市の割合	4.1%	3.8%	3.8%
半島3市	9,093	8,723	10,882
島原市の割合	39.1%	39.1%	40.0%

島原市の割合は、半島3市では増加している。

【従業者数の比較】

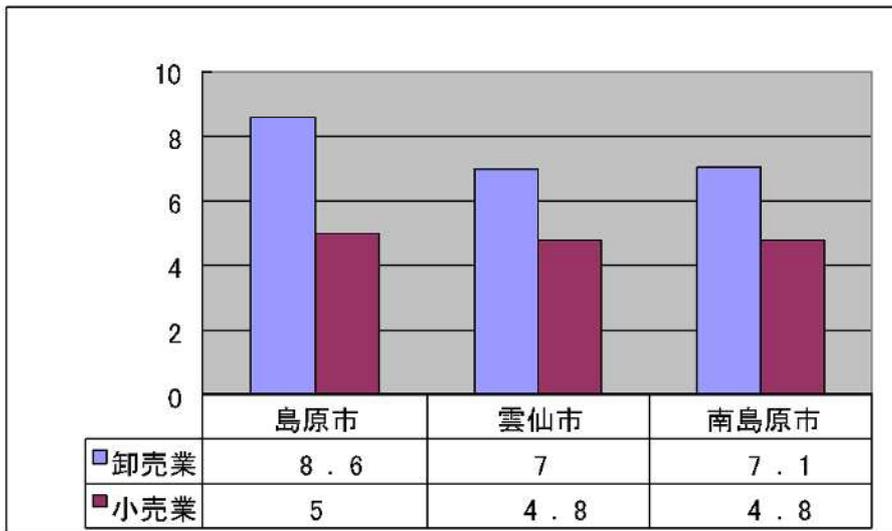
(単位：人)



島原市は、卸・小売業の従業者数が一番多い。

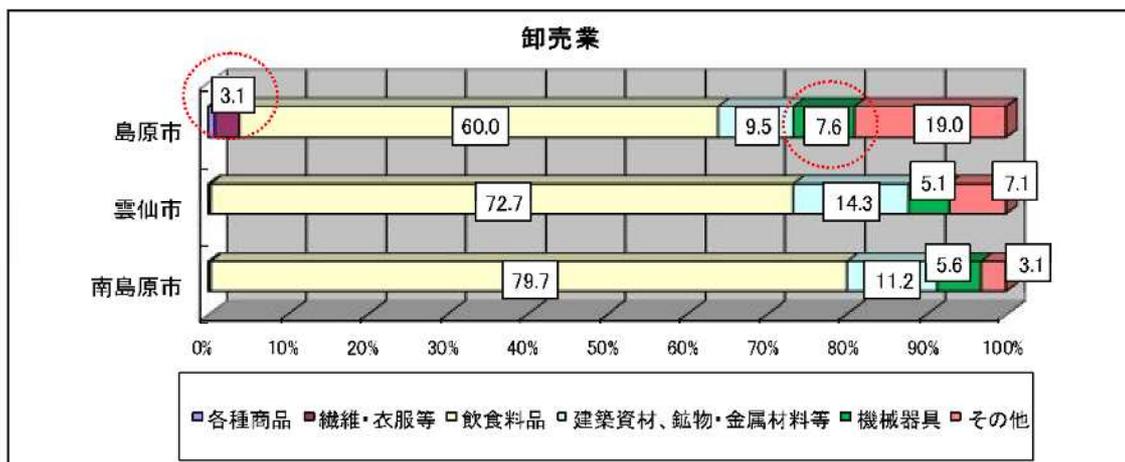
【1 事業所あたりの従業者数】

(単位：人)

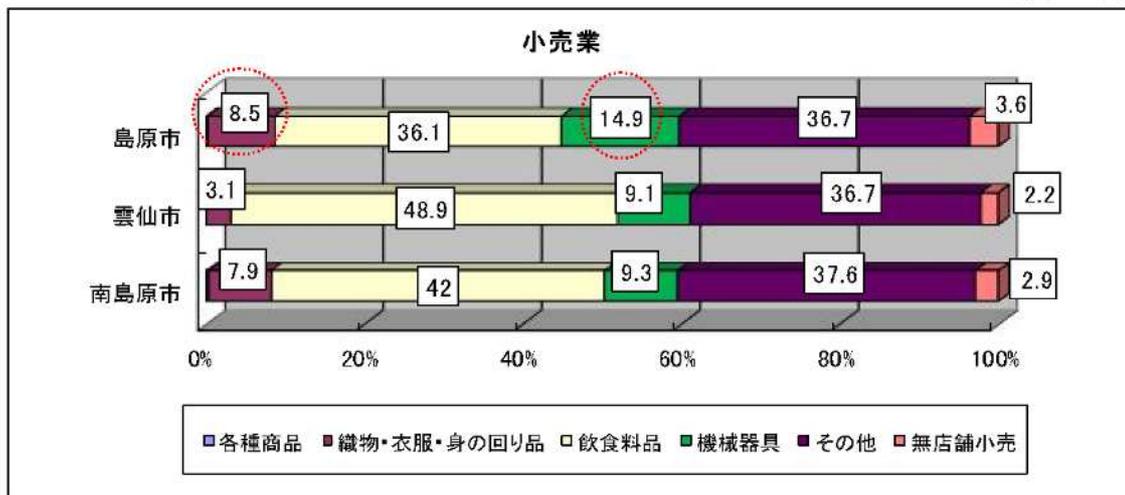


【業種別従業者数の割合】

(単位：%)



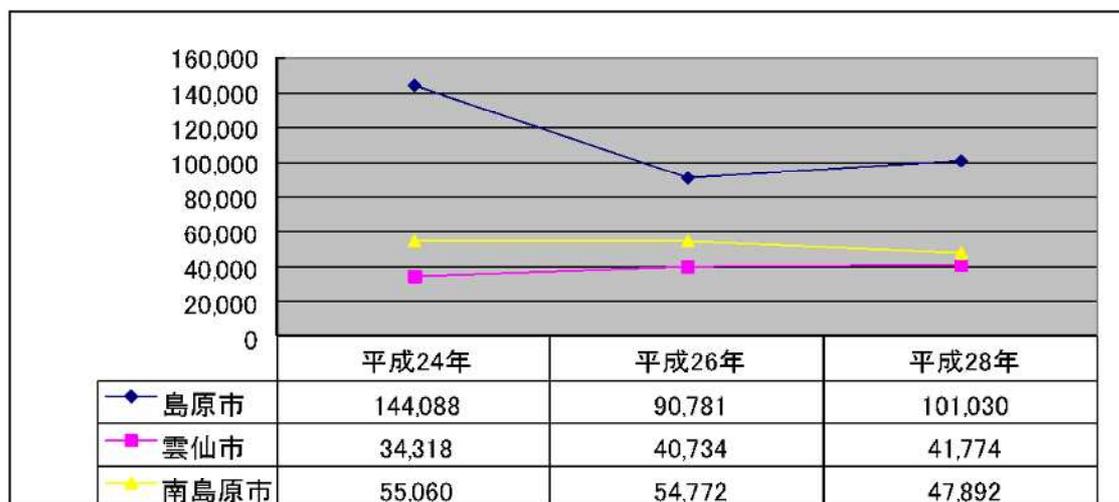
(単位：%)



島原市は、卸・小売業ともに繊維・衣服・身の回り品、機械器具の従業者数の割合が一番高い。

③ 年間商品販売額の推移

(単位：百万円)



平成28年販売額は、平成26年に比べると、約10%の増となっている。

【年間商品販売額の割合】

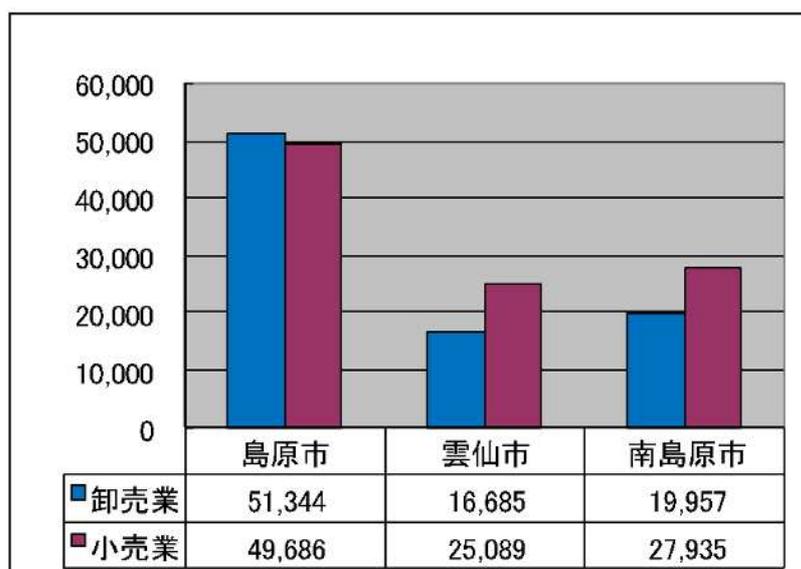
(単位：百万円)

	平成24年	平成26年	平成28年
長崎県	2,668,721	2,787,832	2,986,949
島原市の割合	5.4%	3.3%	3.4%
半島3市	233,466	186,287	190,696
島原市の割合	61.7%	48.7%	53.0%

半島3市における島原市の割合は、増加している。

【年間商品販売額の比較】

(単位：百万円)

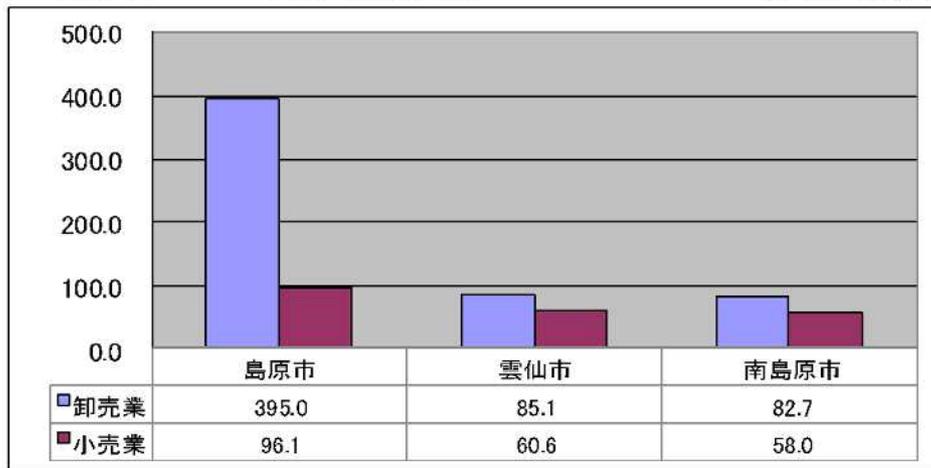


半島3市の中で、島原市が卸・小売業とも販売額が一番高い。

また、島原市だけが、卸売業の販売額が小売業の販売額よりも高くなっている。

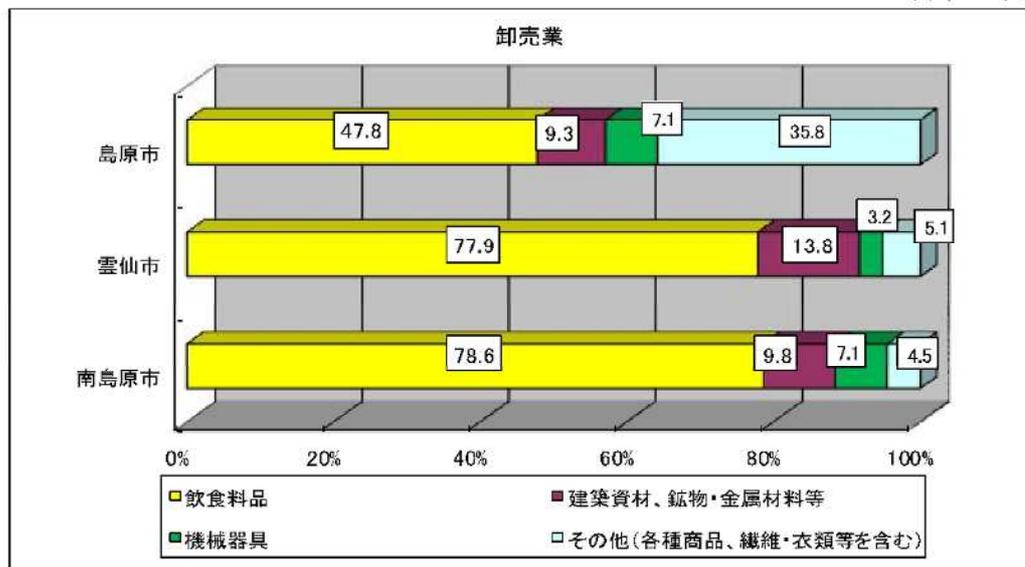
【1 事業所あたりの年間商品販売額】

(単位：百万円)

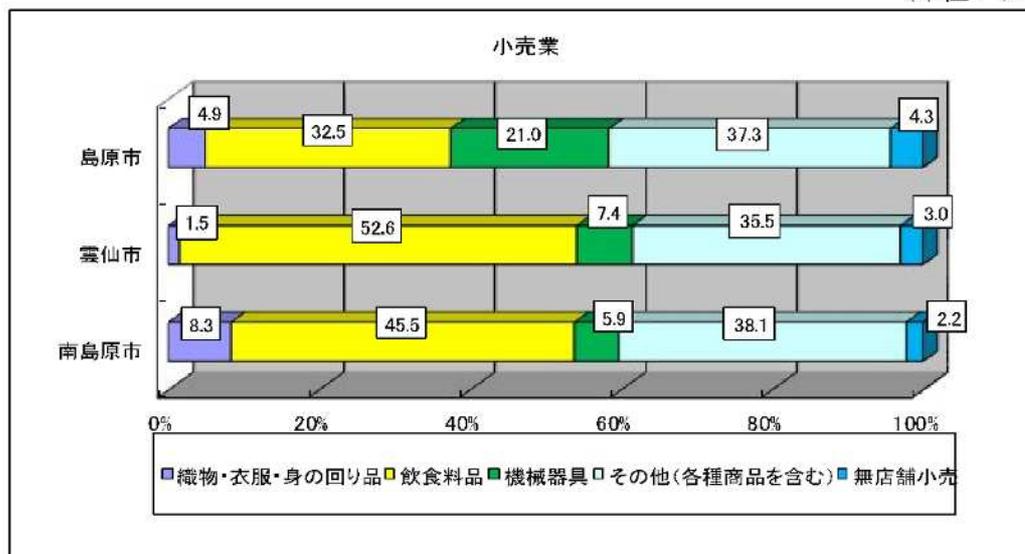


【業種別商品販売額の割合】

(単位：%)



(単位：%)



島原市は、卸・小売業ともに、飲食料品の占める割合が低い。

#### (4) 製造業

##### ① 事業所数の状況

【事業所数の推移（従業者4人以上）】

(単位:事業所)



半島3市の事業所数は、減少傾向にある。

【事業所数の割合】

(単位:事業所)

	平成25年	平成26年	平成28年	平成29年	平成30年
長崎県	1,849	1,794	1,969	1,676	1,638
島原市の割合	4.5%	4.5%	4.4%	4.5%	4.8%
半島3市	365	355	381	331	313
島原市の割合	22.7%	22.5%	22.6%	22.7%	24.9%

【業種別事業所数の比較】

(単位:事業所)

項目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	44	36	141
飲料・たばこ・飼料製造業	4	1	1
繊維工業	10	13	10
木材・木製品製造業	1	-	1
家具・装備品製造業	3	1	1
印刷・同関連業	2	-	1
プラスチック製品製造業	-	2	-
窯業・土石製品製造業	2	6	7
鉄鋼業	2	-	1
金属製品製造業	3	2	6
はん用機械器具製造業	1	1	1
生産用機械器具製造業	-	-	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	2	-	1
電気機械器具製造業	-	1	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	2	1	-
その他の製造業	2	-	-
合計	78	64	171

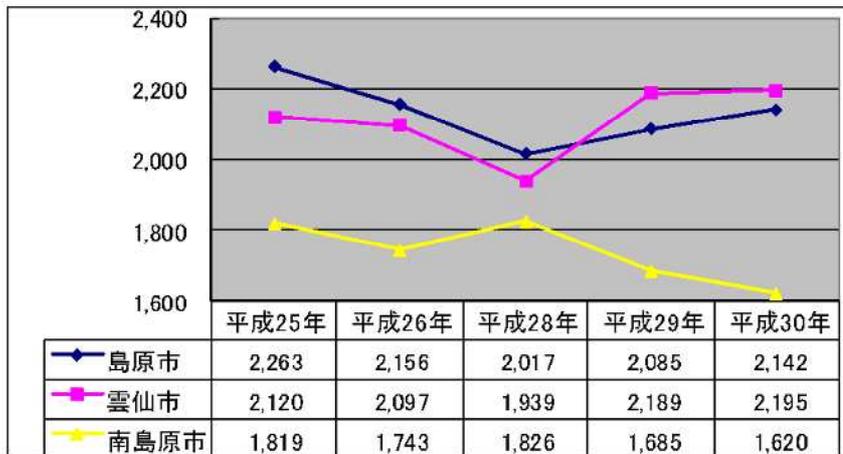
半島3市の事業所数では、食料品製造業が一番多い。

他の業種では3市とも大きな差はない。

② 従業者の現状

【従業者数の推移】

(単位：人)



従業者数については、平成30年に島原市と雲仙市が増加傾向に、南島原市は減少傾向が続いている。

【従業者数の割合】

(単位：人)

	平成25年	平成26年	平成28年	平成29年	平成30年
長崎県	56,459	55,126	57,588	58,643	57,358
島原市の割合	4.0%	3.9%	3.5%	3.6%	3.7%
半島3市	6,202	5,996	5,782	5,959	5,957
島原市の割合	36.5%	36%	35.0%	35.1%	36.0%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、増加傾向となっている。

【業種別従業者数の比較】

(単位：人)

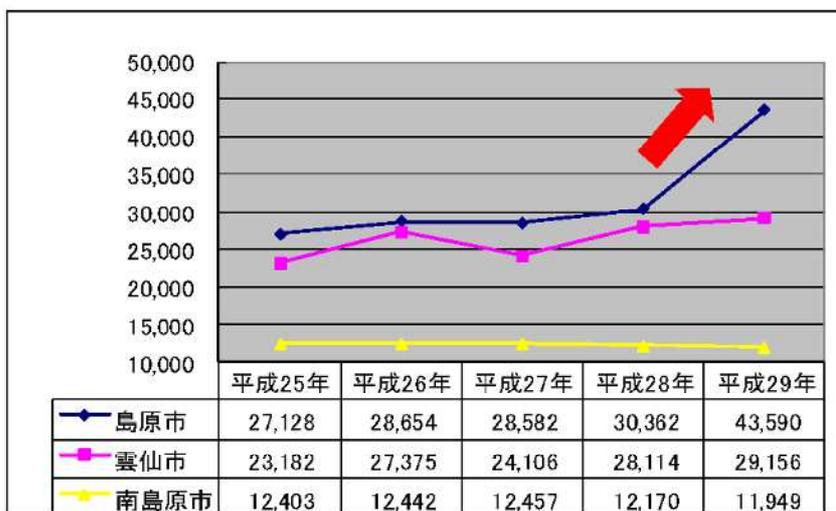
項目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	1,038	898	972
飲料・たばこ・飼料製造業	52	4	6
繊維工業	447	837	284
木材・木製品製造業	29	-	6
家具・装備品製造業	20	10	5
印刷・同関連業	19	-	9
プラスチック製品製造業	-	63	-
窯業・土石製品製造業	36	93	102
鉄鋼業	64	-	9
金属製品製造業	50	41	38
はん用機械器具製造業	159	-	76
生産用機械器具製造業	-	98	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	142	-	113
電気機械器具製造業	-	133	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	74	18	-
その他の製造業	12	-	-
合計	2,142	2,195	1,620

島原市の従業者数は、食料品製造業の増加幅が大きい。

### ③ 製造品出荷額

#### 【製造品出荷額の推移】

(単位：百万円)



出荷額については、平成28年から平成29年にかけて、島原市は大きく増えている。(前年比144%)

#### 【製造品出荷額の割合】

(単位：百万円)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
長崎県	1,627,820	1,562,494	1,628,207	1,739,733	1,829,520
島原市の割合	1.7%	1.8%	1.8%	1.7%	2.4%
半島3市	62,713	68,471	65,145	70,646	84,695
島原市の割合	43.3%	42%	43.9%	43.1%	51.5%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、増加している。

#### 【業種別製造品出荷額の比較】

(単位：百万円)

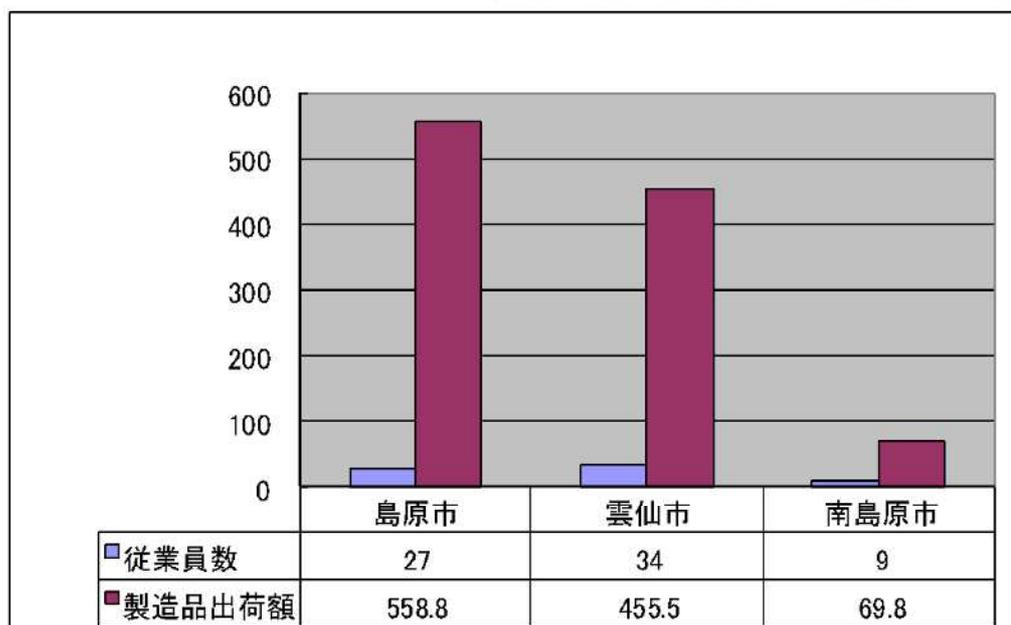
項目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	17,242	16,824	6,733
飲料・たばこ・飼料製造業	16,400	×	×
繊維工業	2,618	6,425	1,773
木材・木製品製造業	×	-	×
家具・装備品製造業	213	×	×
印刷・同関連業	×	-	×
プラスチック製品製造業	-	×	-
窯業・土石製品製造業	×	959	1,374
鉄鋼業	×	-	×
金属製品製造業	457	×	342
はん用機械器具製造業	×	×	×
生産用機械器具製造業	-	-	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	×	-	×
電気機械器具製造業	-	×	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	×	×	-
その他の製造業	×	-	-
合計(※注)	43,590	29,156	11,949

半島3市の出荷額を比較すると、島原市が一番多い。

(※注)表中の「×」は、申告者の秘密が漏れないよう秘匿処理したものであるため、合計額が一致しない。

【1 事業所あたりの従業者数及び製造品出荷額】

(単位 従業者数：人、製造品出荷額：百万円)

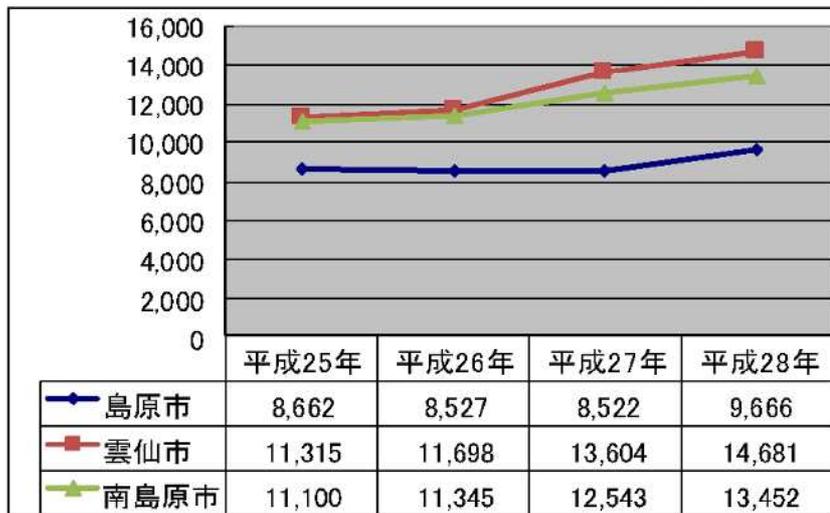


1 事業所あたりの従業員数は雲仙市が、製造品出荷額は、島原市が一番多い。

(5) 農業

① 農業総生産額の推移

(単位：百万円)



3市の総生産額は、平成27年と比べ平成28年は約8~13%の増加となった。

【農業総生産額の割合】

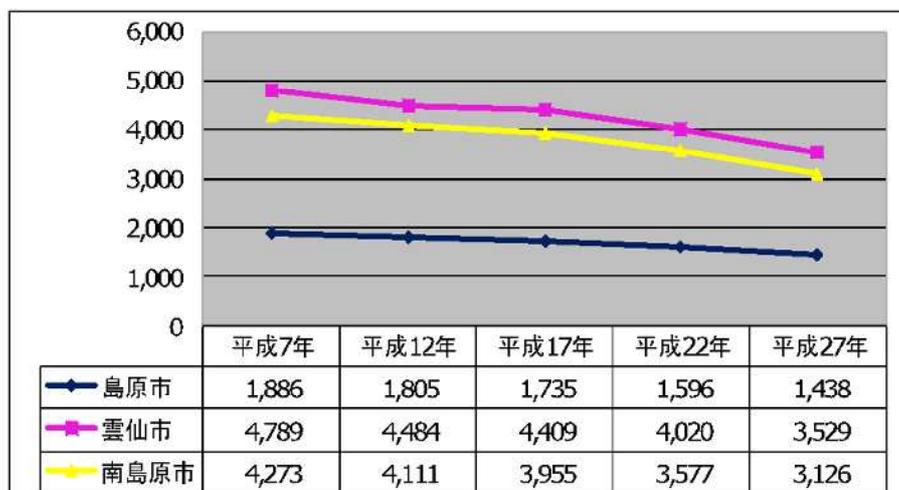
(単位：百万円)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
長崎県	70,764	70,177	74,082	83,074
島原市の割合	12.2%	12.1%	12.0%	11.6%
半島3市	31,077	31,570	34,669	37,799
島原市の割合	27.9%	27.0%	25.0%	25.6%

総生産額は長崎県、半島3市とも増加している。

② 農家戸数の推移

(単位：戸)



半島3市ともに、農家戸数は減少している。

【農家戸数の割合】

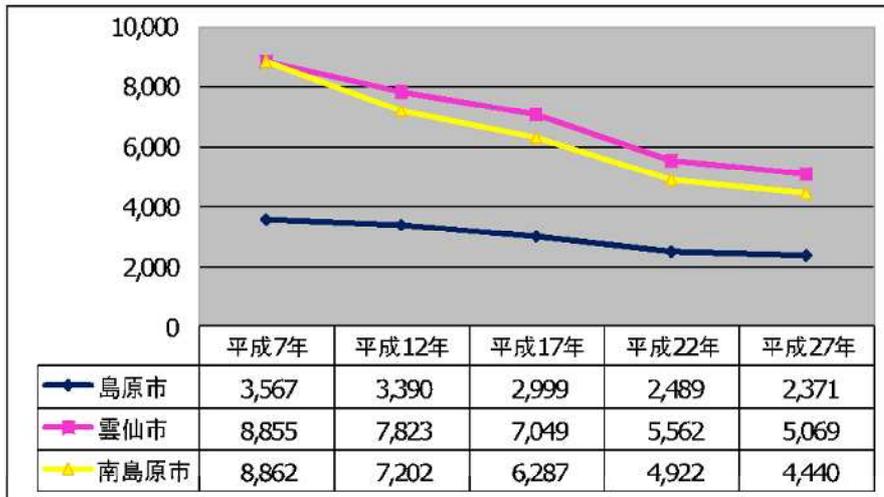
(単位：戸)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	48,497	44,415	42,127	38,745	33,802
島原市の割合	3.9%	4.1%	4.1%	4.1%	4.3%
半島3市	10,948	10,400	10,099	9,193	8,093
島原市の割合	17.2%	17.4%	17.2%	17.4%	17.8%

半島3市における島原市の割合は、ほぼ横ばいである。

③ 農業就業人口の推移

(単位：人)



半島3市の人口は、共に減少している。

【農業就業人口の割合】

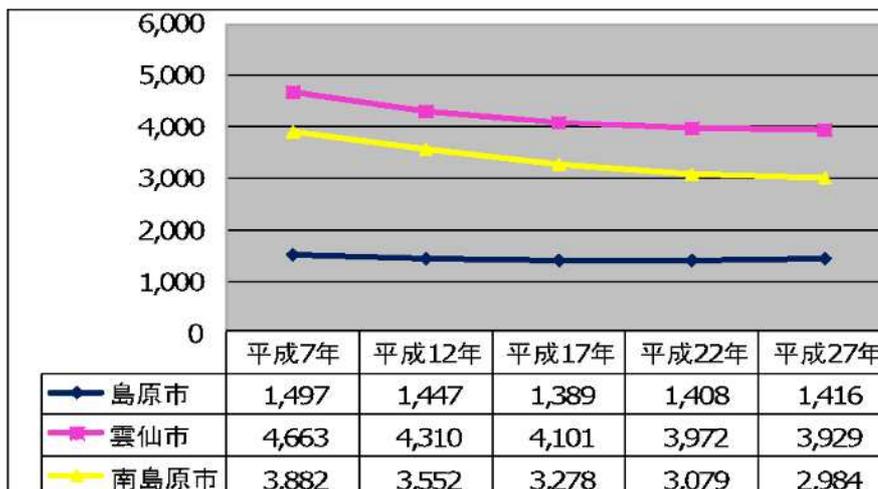
(単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	76,260	60,558	52,661	40,936	34,440
島原市の割合	4.7%	5.6%	5.7%	6.1%	6.9%
半島3市	21,284	18,415	16,335	12,973	11,880
島原市の割合	16.8%	18.4%	18.4%	19.2%	20.0%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、増加している。

④ 経営耕地面積

(単位：ha)



半島3市の中で、島原市の面積だけが、横ばいで推移している。  
他市は減少傾向にある。

【経営耕地面積の割合】

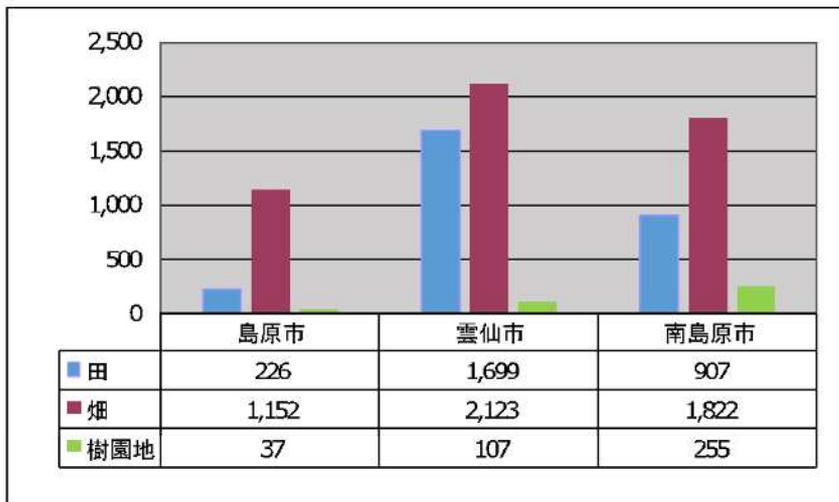
(単位：ha)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	41,405	35,898	32,595	31,010	30,756
島原市の割合	3.6%	4.0%	4.3%	4.5%	4.6%
半島3市	10,042	9,309	8,768	8,459	8,329
島原市の割合	14.9%	15.5%	15.8%	16.6%	17.0%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、増加している。

【経営耕地面積の比較】

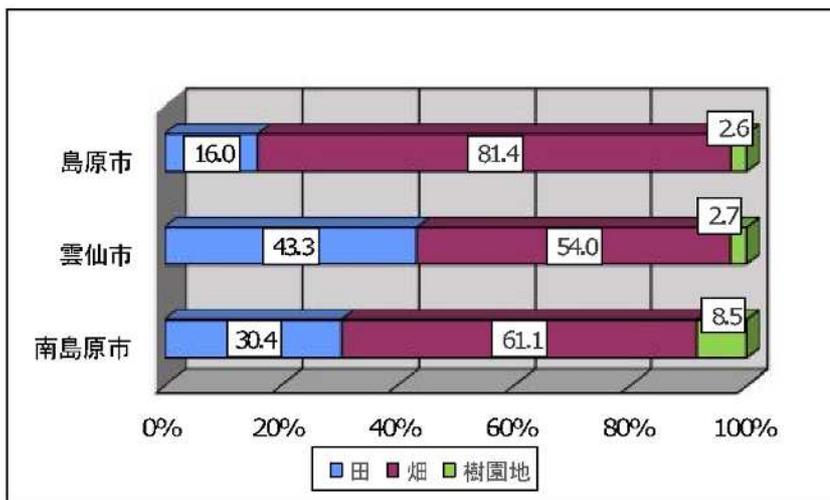
(単位：ha)



半島3市の面積は、畑が最も多く、次いで田、樹園地の順となっている。

【経営耕地面積割合の比較】

(単位：%)

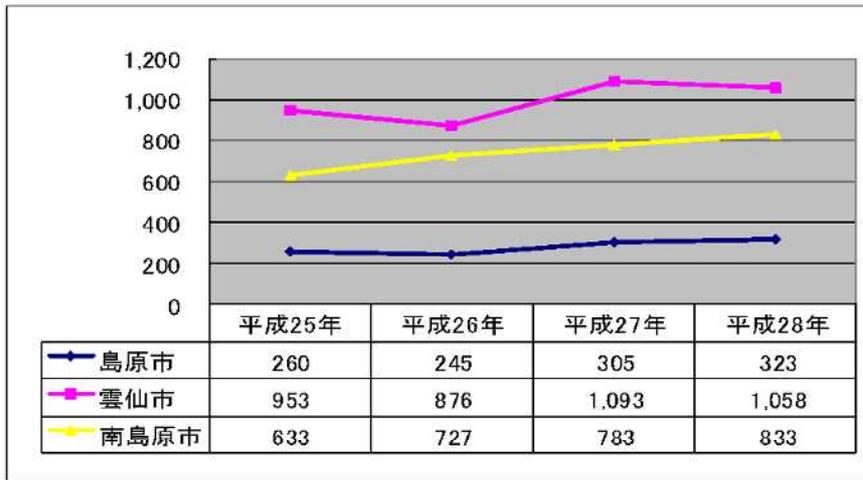


半島3市の面積の割合は、3市とも畑の占める割合が一番高い。特に、島原市は約8割を占め、特徴的である。

(6) 林業

① 林業総生産額の推移

(単位：百万円)



島原市、南島原市の平成28年生産額は、前年と比べ増加している。

【林業総生産額の割合】

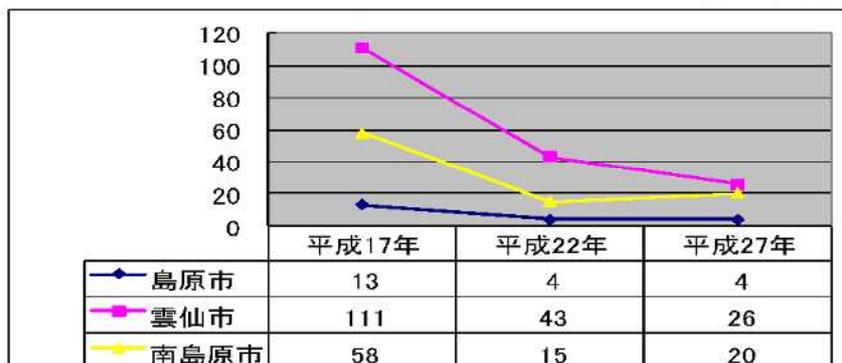
(単位：百万円)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
長崎県	4,307	4,424	5,017	5,067
島原市の割合	7.5%	7.3%	6.4%	6.4%
半島3市	1,846	1,848	2,181	2,214
島原市の割合	14.1%	13.3%	14.0%	14.6%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、横ばいの傾向にある。

② 林業経営体数の推移

(単位：経営体)



半島3市の経営体数の割合は、共に大幅に減少している。

【林業経営体数の割合】

(単位：経営体)

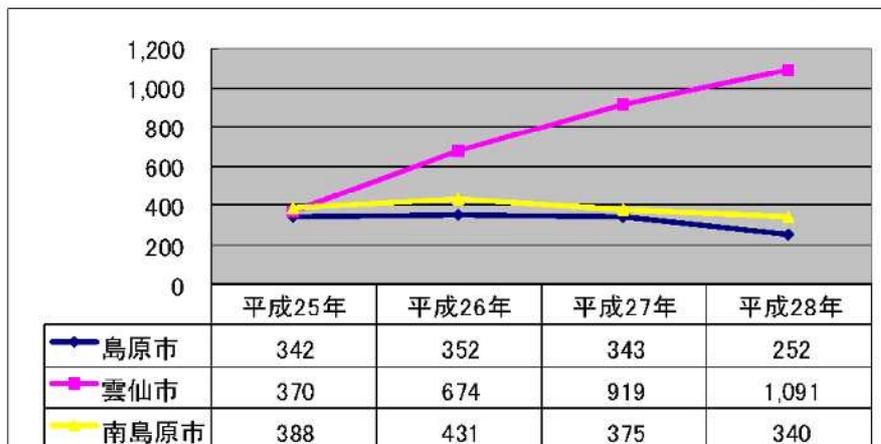
	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	2,108	675	559
島原市の割合	0.6%	0.6%	0.7%
半島3市	182	62	50
島原市の割合	7.1%	6.5%	8.0%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、横ばいの傾向にある。

## (7) 水産業

### ① 水産業総生産額の推移

(単位：百万円)



島原市の水産業総生産額は、3割近く減少している。雲仙市は2割近く増加。

### 【水産業総生産額の割合】

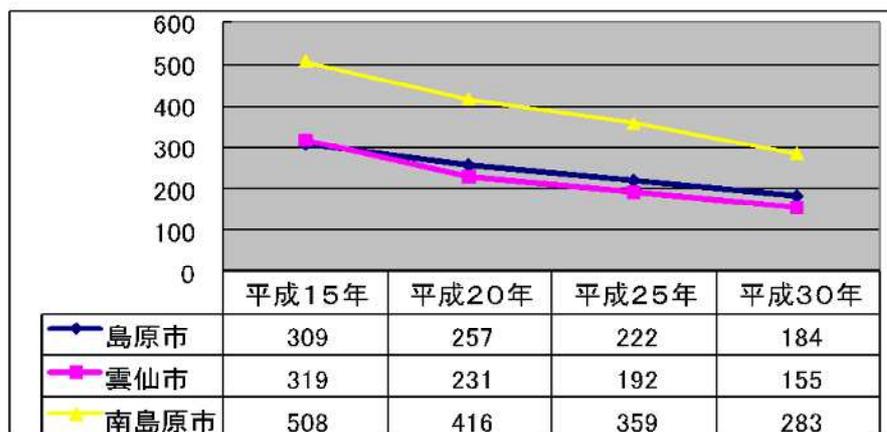
(単位：百万円)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
長崎県	38,990	39,843	46,911	45,910
島原市の割合	0.9%	0.9%	0.7%	0.5%
島原半島	1,100	1,457	163	1,683
島原市の割合	31.1%	24.2%	21.1%	15.0%

長崎県内及び半島3市における島原市の割合は、大きく減少した。

### ② 漁業経営体数の推移

(単位：経営体)



半島3市の経営体数は、平成25年と比較すると約2割近くも減少。

### 【漁業経営体数の割合】

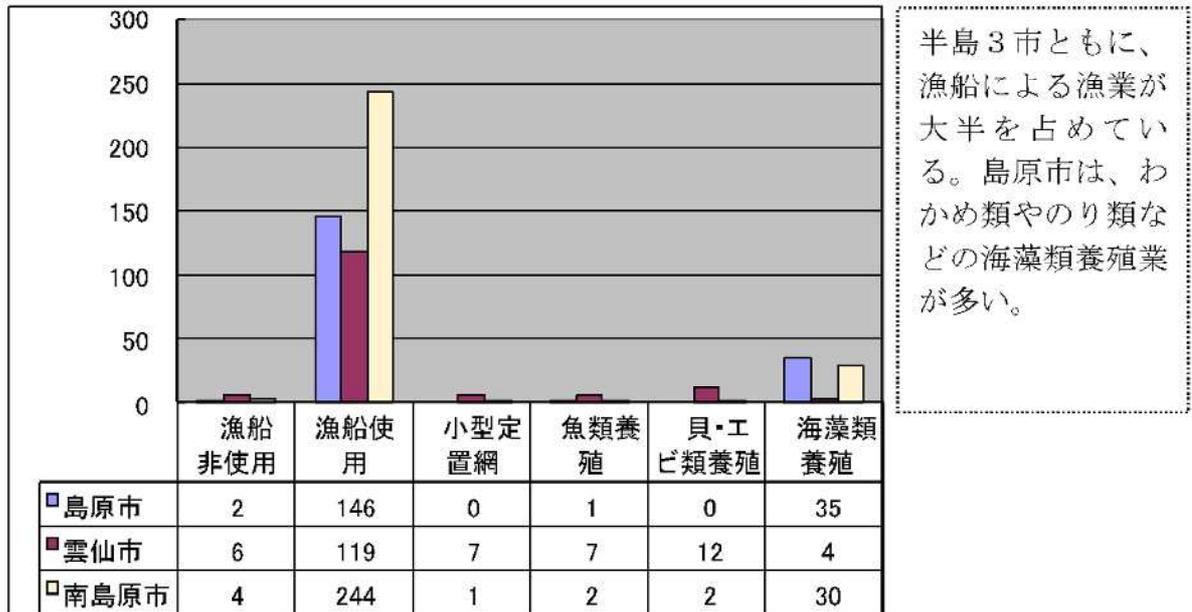
(単位：経営体)

	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年
長崎県	10,756	8,849	7,690	5,998
島原市の割合	2.9%	2.9%	2.9%	3.1%
半島3市	1,136	904	773	622
島原市の割合	27.2%	28.4%	28.7%	29.6%

長崎県全体、及び半島3市ともに、前回調査に比べ大きく減少している

③ 海面漁業に関する経営体数

(単位：経営体)



(8) 島原市の主な農水産物の出荷量、産出量 (平成30年)

① 指定野菜の生産出荷量

(単位：t)

	だいこん	にんじん	はくさい
島原市	32,700	18,240	11,800
長崎県	49,200	30,400	20,700
県内に占める割合	66.5%	60.0%	57.0%

② 海産物の年間産出量 (平成29年)

ア わかめ

(単位：t)

わかめ	島原市	(参考) 南島原市
年間産出量	200	500

イ ガザミの年間産出量

(単位：t)

ガザミ	島原市	(参考) 雲仙市
年間産出量	5	12

ウ クルマエビの年間産出量

(単位：t)

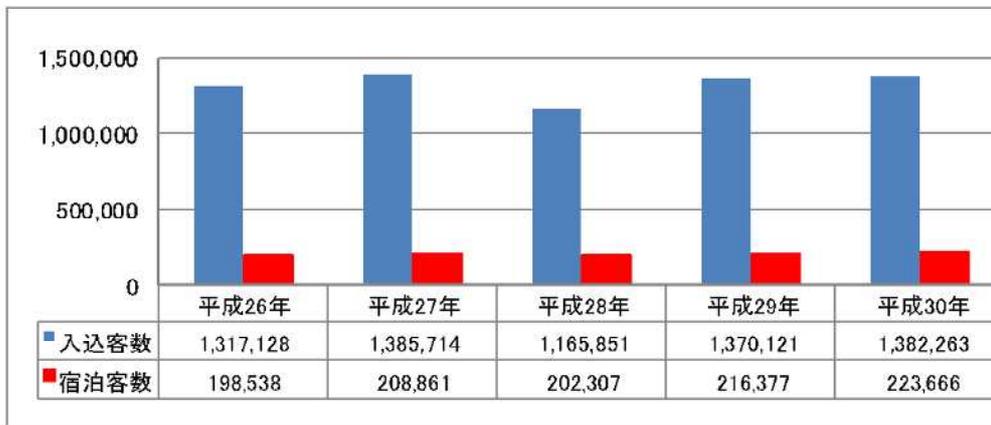
クルマエビ	島原市
年間産出量	15

#### 4. 観 光

##### (1) 観光客数

##### ① 入込客数及び宿泊客数

(単位:人)

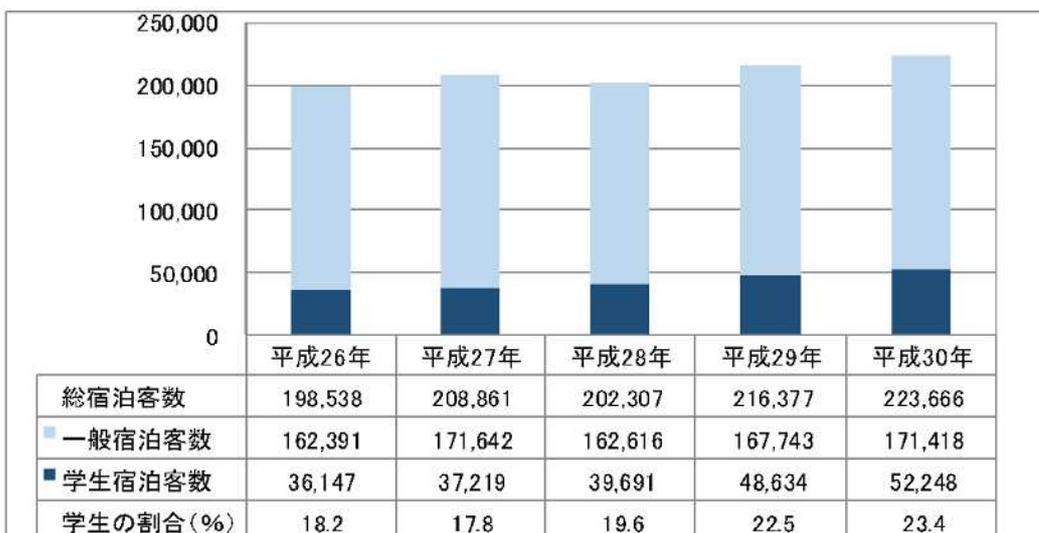


ここ数年、入込客数は130万人、宿泊客数は20万人前後で推移していたが、平成28年は熊本地震の影響により減少した。

その後、平成29年に再び地震発生前の水準まで戻り、入込客数及び宿泊客数は、増加傾向にある。

##### ② 宿泊客のうち学生宿泊客数

(単位:人)

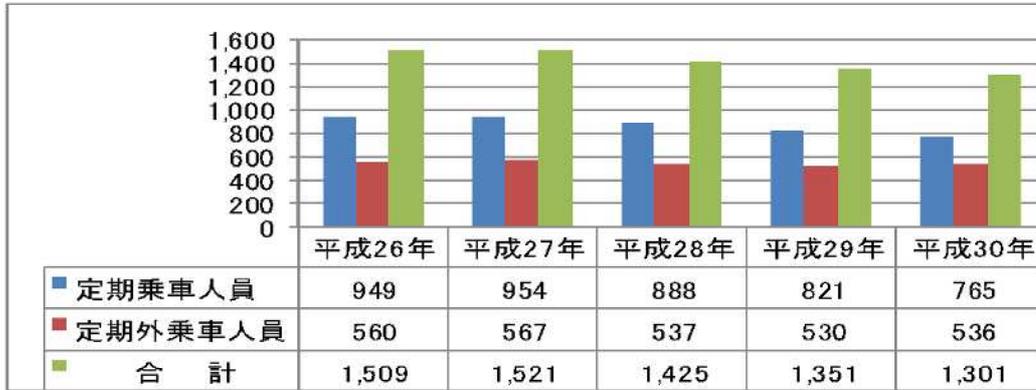


総宿泊客数・学生（児童、小学生を含む）宿泊客数ともに、増加傾向にある。

(2) 公共交通機関利用状況

① 島原鉄道乗車人員数

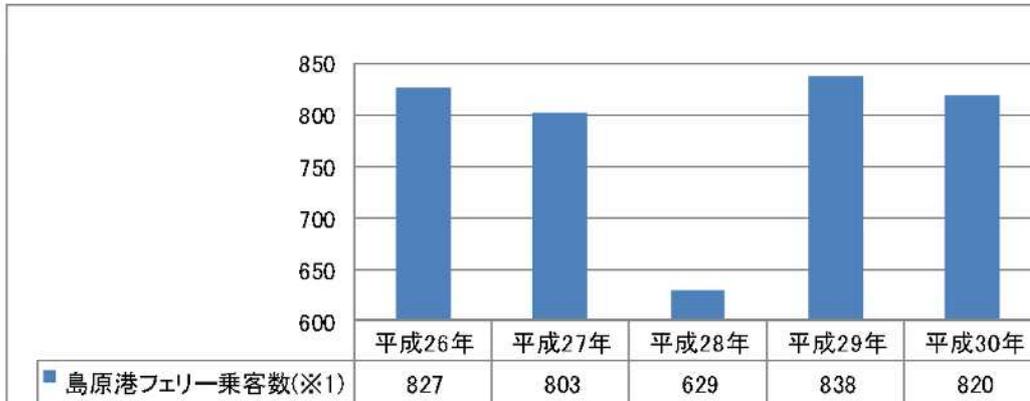
(単位：千人)



平成27年度までは約150万人前後の利用があったが、少子、高齢化による人口減少に加え、平成28年の熊本地震の影響により、利用客が減少している。

② 島原港フェリー乗客数

(単位：千人)



島原港フェリー乗客数は、約80万人が利用している。

ただし、平成28年は熊本地震の影響により乗客数が減少した。

(※1) 乗客数は、高速船三池島原ライン、熊本フェリー、九商フェリーの総計

### (3) 各観光施設の入場者等の状況

#### ① 島原城

(単位：人)



元和4年（1618年）に着工し、4～7年の歳月を経て完成した。明治維新で廃城になり、払下げ・解体されたが、昭和39年（1964年）に天守閣が復元され、平成26年（2014年）に復元50周年を迎えた。平成29年までは増加傾向であったが平成30年は減少している。

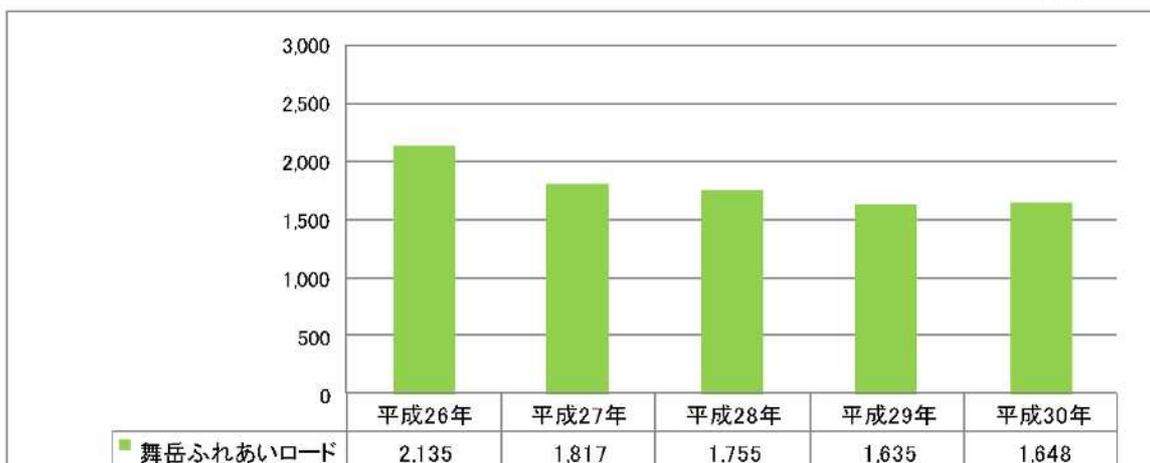
#### ② 武家屋敷

武家屋敷は、島原市の観光名所の1つで、平成21年には約10万7千人の観光客が訪れている。平成21年度に景観計画を策定し、街並みを保存するために、武家屋敷街なみ保存整備事業等の補助事業を実施している。

山本邸、鳥田邸、篠塚邸の3棟を一般公開し、より身近に藩政時代の面影に触れることができるようにしている。

#### ③ 舞岳ふれあいロード

(単位：人)



舞岳を頂点に扇状に広がる有明の台地にちなみ、8888段と全て末広がりの平成8年8月8日午前8時に開通。

緑あふれる自然の中で多くの人々のふれあいと健康づくりを願って造られた。

全長3km、標高差314m、片道約1時間で、気軽にハイキングが楽しめる。

④ 有明の森フラワー公園

(単位：人)



舞岳のふもと、県道愛野・島原線沿いにあり、眼下に有明海、背後には平成新山を望む風光明媚な場所で、四季折々の花が楽しめる公園。秋には、サルビアやコスモスが、まるで花のじゅうたんのように咲き乱れ、公園内を埋め尽くし観光スポットとして親しまれている。

また、この公園を会場として、6月には地域の農畜産物等の特産品販売が行われる「島原ふるさと特産市」、10月にはフリーマーケットやステージイベントなどで賑わう「アリアケフェスタ」が開催されている。

⑤ 雲仙岳災害記念館

(単位：人)

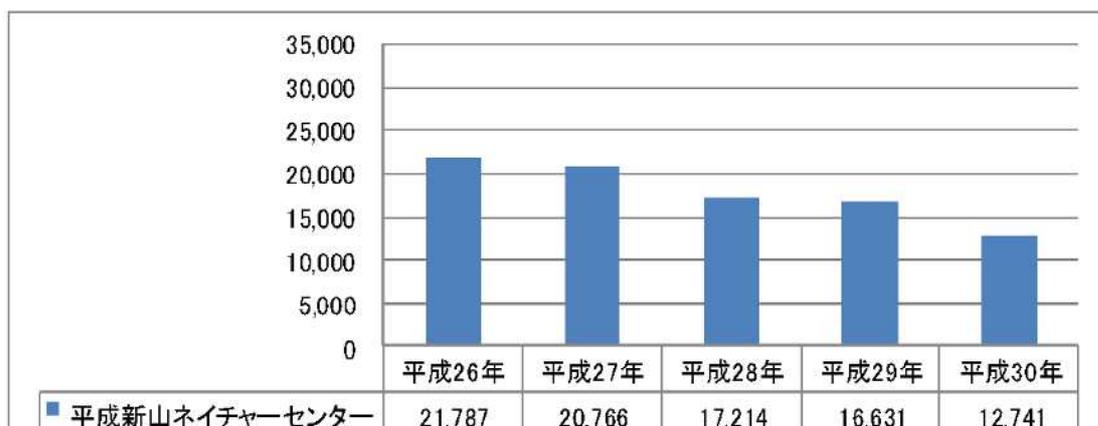


島原地域再生行動計画のプロジェクトの一つとして、平成14年に開館した火山体験学習施設で、平成2年11月に始まった雲仙・普賢岳の噴火活動から平成8年5月の噴火活動終息宣言までの出来事を、映像や様々な資料により学ぶことができる。島原半島ジオパークの中核施設である。

平成30年4月には施設がリニューアルオープンし、入館者数が大幅に増加した。

⑥ 平成新山ネイチャーセンター

(単位：人)



島原半島ジオパークのジオサイトの一つで、垂木台地という高台にあり「平成新山」を最も近くで見ることができる。

⑦ 鯉の泳ぐまち

昭和56年から地域住民のまちづくりとして整備。平成21年度には湧水庭園四明荘を購入、平成27年度には鯉の泳ぐまち観光交流センター「清流亭」をオープンし、さらに観光客の誘客を図っている。

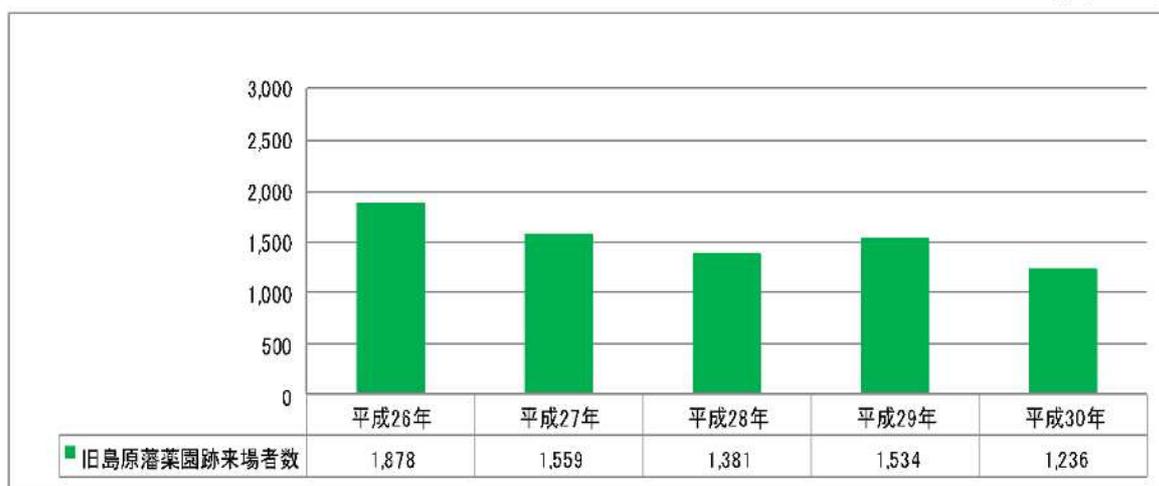
⑧ 島原湧水群

島原市内には70カ所以上の湧水ポイントがあり、全体の湧水量は1日に20万トンといわれている。四明荘、浜の川湧水、鯉の泳ぐまち、清流亭、武家屋敷水路などが見どころ。

(4) 文化財の観光客の状況

旧島原藩薬園跡

(単位：人)



国指定史跡である旧島原藩薬園跡は、毎年千人を超える観光客が訪れている。

(5) イベントの実施状況

① しまばら温泉不知火まつり

毎年、10月中旬に実施される秋の伝統行事、島原城薪能やしまばらガマダス阿波踊り大会、不知火奉納舞台が行われる。不知火奉納舞台では「歴史、文化や大地の恵みに感謝」を表現する伝統芸能や舞踊が披露される。

② 島原ふるさと特産市

地域の農畜産物、海産物、加工食品等の特産品の販路拡大とPR、また地産地消を目的として、毎年6月に有明の森フラワー公園で開催される。

生産者と消費者とが直接情報交換ができる場所として、観光客に好評である。あわせて、この季節はサルビアやマリーゴールドが公園内を彩り、景観を楽しむことができる。

③ 島原ウィンターナイト・ファンタジア

毎年、12月上旬から1月上旬まで、島原外港緑地公園で開催。アニマルゾーンやカップルゾーンなど、ゾーンごとのイルミネーションが飾られ、子どもから大人まで楽しめる冬の風物詩となっている。

④ 精霊流し

毎年、8月15日に市内各所で開催。300年の長きに渡り続いている伝統行事で、平成30年度には54隻の船が繰り出し、有明海へ流された。

⑤ 島原温泉ガマダス花火大会

毎年、8月下旬に島原港で開催され、約3,000発の花火が打ち上げられる。例年、約4万2千人前後の観衆で賑わいを見せている。

⑥ アリアケフェスタ

毎年、10月下旬開催。有明の森フラワー公園で実施。花の中の遊歩道においてフリーマーケット、旬の味がお得な有明特産品販売などが催される。

⑦ 島原ふるさと産業まつり

地場産業のPRを目的として開催されている。島原の特産品や地元産品・日常品などを取り扱う店舗が一堂に会し開催される。

⑧ 島原水まつり

昭和62年から実施。毎年、水の週間に合わせ8月上旬に、市内の湧水スポットで竹灯籠の設置や各種イベントが開催される。

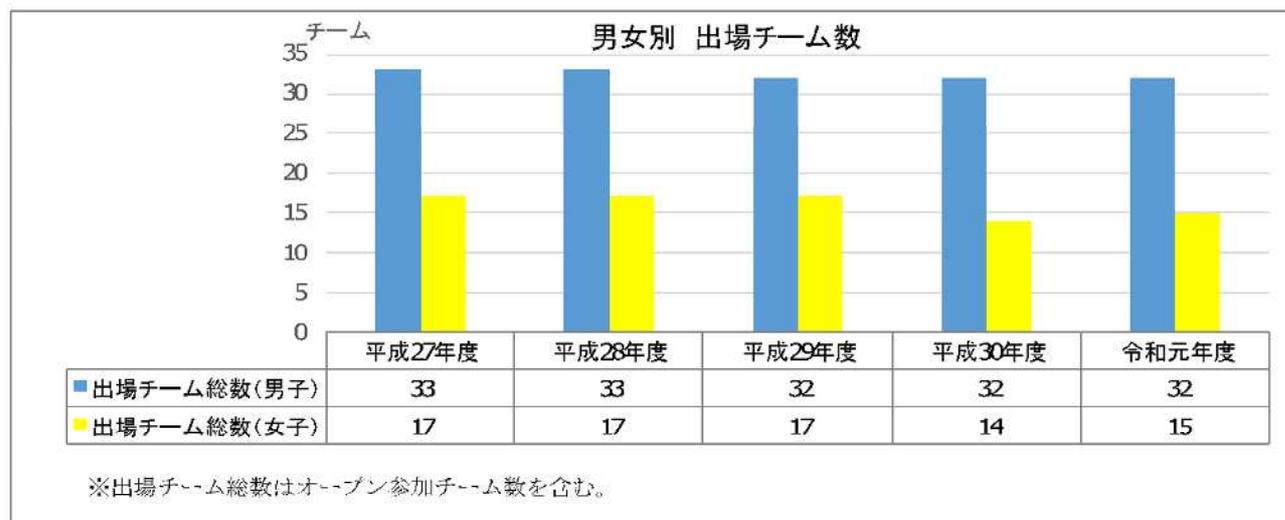
⑨ 島原城下ひなめぐり

1月下旬から3月上旬まで実施。商店街、観光施設、宿泊施設に種々のひな人形を展示。平成24年から人間ひな行列に甲冑や装束隊も加わった。

⑩ 島原城新能

1686年（貞享3年）3月6日、肥前島原藩初代藩主松平忠房が帰国するにあたって将軍綱吉より馬を拝領し、閏3月26日に島原に帰るや、それを祝っての御能の会が催されたのが起源。昭和58年秋、日本古来の芸能と現代庶民との文化の接点を求めて復活。

⑪ 平成新山 島原学生駅伝



駅伝大会は、「平成新山」を冠とする大会として、選手たちの力強い走りと、島原半島ジオパークはもとより、島原の魅力・情報を発信することで交流人口の拡大と地域の活性化に寄与することを目的に、平成10年度から半島3市で男子駅伝を開催。女子駅伝も平成17年度から開催している。平成20年度からは島原市のみで12月の第1週の土曜日に開催しており、冬の一大スポーツイベントとして定着している。

本大会は、島原市内のコースにて男子が7区間（57.74キロ）、女子が5区間（22.79キロ）にて行われ、男子の優勝校には翌年度の出雲全日本大学選抜駅伝競走の出場権が与えられる。令和元年度の優勝校は、男子「第一工業大学」、女子「福岡大学（6連覇）」だった。

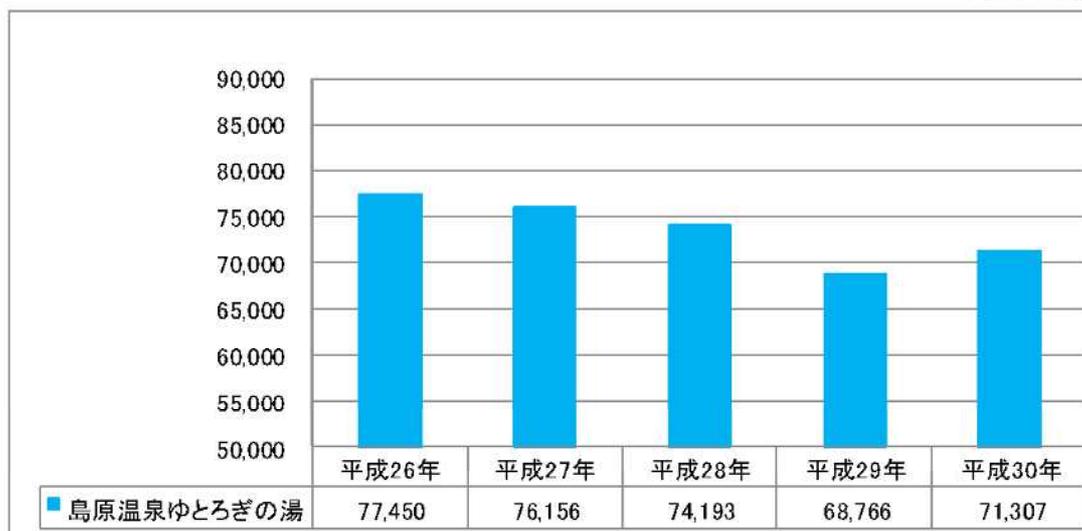
⑫ 島原初市

3月上旬開催。江戸時代初期、島原城築城の際に、各地から集められた労働者たちのために開かれた「市」が始まりとされる。今では、島原を代表とする春の風物詩のひとつであり、霊丘公園グラウンドに多くの出店が並び、飲食物や植木等の販売を行う。

(6) 温泉施設の利用状況

① 島原温泉ゆとろぎの湯

(単位：人)

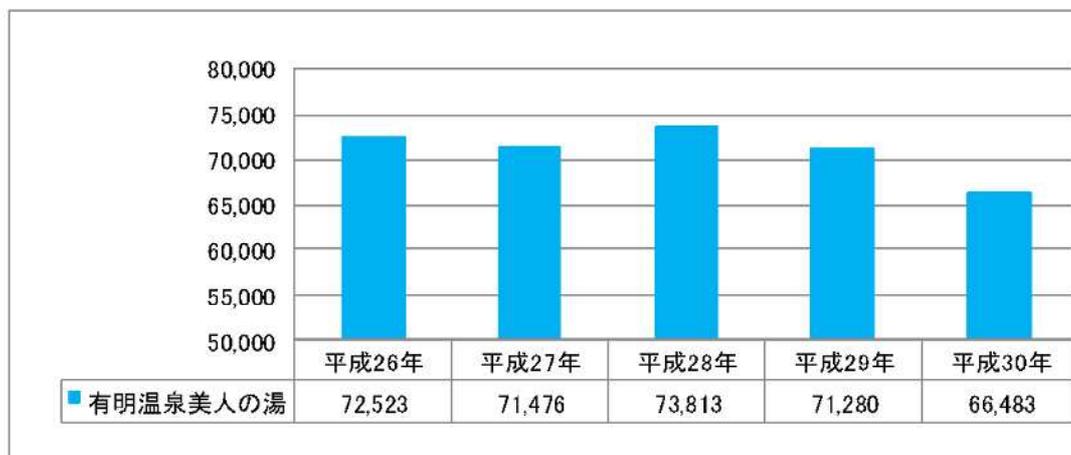


島原市中心部の一番街アーケードに隣接し、「鯉の泳ぐまち」からも程近く、平成20年4月1日にオープンした。

泉質は炭酸水素塩泉で美肌効果があり、敷地内には足湯や飲泉所があり、駐車場も完備しており、観光客も気軽に島原温泉を堪能出来る施設。

② 有明温泉美人の湯

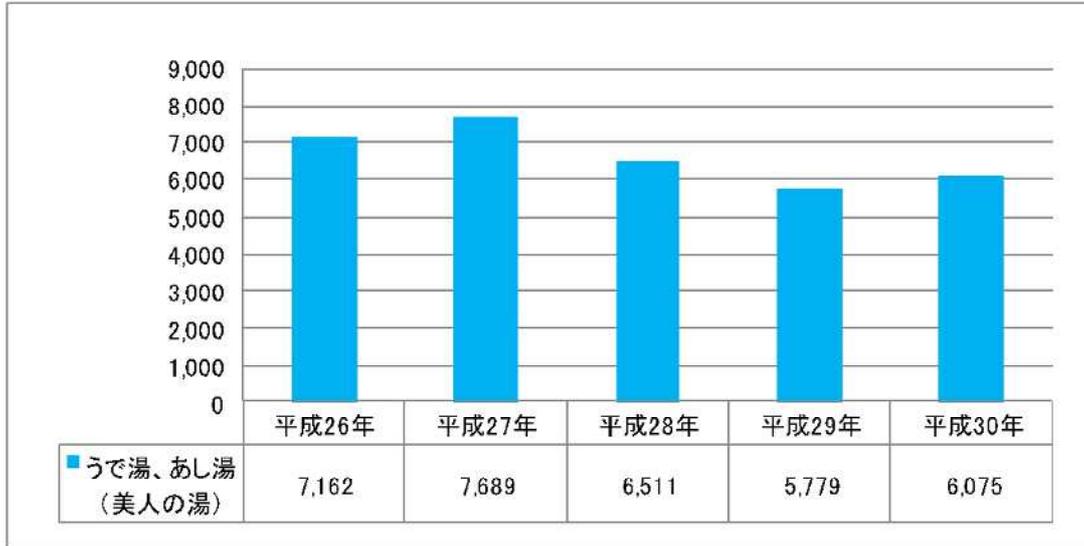
(単位：人)



平成15年12月、有明福祉センター付近で温泉採掘に成功し、その温泉は入浴すると肌がツルツルになることから「美人の湯」と名付けられた。

③ うで湯、あし湯

(単位：人)



有明福祉センターに隣接しているうで湯及びあし湯。料金は無料である。

④ 島原温泉の特徴

島原温泉（2源泉の混合泉） 元池源泉と観音島源泉を3：7の割合で混合

泉質：マグネシウム・ナトリウム－炭酸水素塩温泉、泉温：61.8℃

加温前泉温30.1℃

島原温泉泉源公園とゆとろぎの湯に無料の足湯を設置

島原市内6カ所に飲泉所を設置

【参考】

雲仙温泉

泉質：酸性硫黄泉

小浜温泉

泉質：塩化物泉、泉温：105℃

## (7) 島原の特産品、郷土料理

### ① 特産品（農水産物）

#### ア ガザミ（有明ガネ）

ここでいう「有明ガネ」とは「ワタリガニ」のことを指します。有明海沿岸で獲れ、夏は7月から9月にオスの「ガネ」が、冬は11月から4月に卵を持ったメスの「ガネ」が美味です。一般的な食べ方は塩ゆでで、ぎゅっと詰まった身は甘くて風味豊かです。また、ミソや卵も食通をうならせる味わいです。

#### イ ガンバ

島原地方の方言では、河豚（ふぐ）のことを総称して「ガンバ」と呼びます。語源は外国語に由来するものを含めて諸説ありますが、あまりに美味しいので、命と引き換えに「龕（がん）（棺のこと）桶を用意してでも食べたい」（龕ば→ガンバ）との切なる思いを代弁したもの、との説が一般的です。魚類図鑑等によれば、河豚の種類は100以上あるといわれていますが、日本近海に生息しているのは約50種類。

島原地方で食べられているのは主に、「トラフグ」と「ナシフグ（通称・ムキガンバ）」の二種類です。「ガンバ」料理は秋（彼岸）から春（彼岸）にかけてが、シーズンです。島原の人々は花見の時に、郷土料理の「湯引き」や「ガネ炊き」を持ち込んで酒の肴としています。

#### ウ 海苔

遠浅で波静かな有明海では昔から、対岸の熊本や福岡、佐賀と競うかのように「海苔」の養殖が盛んに行われています。種付け（菌の植え付け）は十月ごろから始まり、十二月から三月頃にかけて収穫されます。収穫された海苔は、ほとんどが薄い板状に乾燥させた「乾海苔」として出荷されます。軽くあぶった「乾海苔」の香りと食感は食欲をそそります。また、生産施設は「ノリヒビ」と呼ばれ、冬の風物詩ともなっており、写真愛好家にとっては絶好の被写体として高い人気を誇っています。

#### エ 大根

大地にまっすぐ根をおろし、太くしっかりと育った大根。雲仙・普賢岳の火山灰土を利用した土地は水はけが良く、光沢のあるなめらかな肌の大根となります。実が詰まり甘みがあるので、おでんなどの煮物のほか、サラダなど生食にも適しています。

#### オ 白菜

白菜は「養生三宝」（白菜、大根、豆腐）と言われる食材の一つ。冬の寒さに負けず雲仙・普賢岳を背景にもつ広大で肥沃な大地の栄養をたっぷり蓄えます。ハウス・トンネル栽培での「春はくさい」の生産が盛んで、全国でも指折りの産地となっています。

#### カ 人参

そよそよとなびく緑の葉の下は鮮やかな橙赤色の人参。その色の濃さは、βカロチンが豊富な表れです。果肉は、柔らかく甘みを含んでおり、色の美しさゆえ、

和風にも洋風にも料理を鮮やかに彩ります。

## ② 特産品（工芸品等）

### ア 島原焼

島原焼窯元は、昭和60年、南崩山町に創業しました。生地に島原半島南部の土を使い、釉薬には眉山のセレクト土、みかん灰、わら灰などを使用して食器、茶器、花器などが制作されています。雲仙・普賢岳の火山灰をそのまま天然の釉薬として用いた、落ち着いた色合いが特徴です。島原焼「流し掛け釉四方大皿」は、平成八年の新春に、皇居応接の間を飾る榮譽を賜っています。

### イ 島原木綿

有明町史によると、江戸時代既に「島原木綿」について記されており、大正・昭和初期になると大三東村・湯江村・三会村・杉谷村を中心に盛んに織られ、品質の良い織布は更に足踏み改良機の出現によって、九州一円、関西、朝鮮と販路を広げたと記されています。当時の記録では、県下の機数は1,196台、大三東村だけでも600台余りあります。織りの中心だったことがわかります。その島原木綿も化学繊維の進出、衣料の大量生産時代を迎えたことで人々の記憶からも薄れていきました。

昭和62年の有明町記念行事を契機に島原木綿再現の機運が高まり、数人の婦人によって実現しました。その後保存会が発足し、以後約20年、平成の島原木綿として現在約10数名の会員によって織り継がれています。島原木綿はもともと仕事着として織られ、縞立ては男縞（細）・女縞・若者縞（太）に大別されていました。有明町民族資料館には大正・昭和初期の白縞・紺縞もありますが、多くは縞木綿で占められています。

### ウ 和ろうそく

寛政4年（1792）4月、大地震による眉山崩壊で津波が城下町を襲い、その復興に藩財政は大変困っていました。藩ではハゼ・木蠟の増産でその危機を切り抜けています。ハゼの実百万斤の生産体制をとり、大阪商人へ売出して、年7千～9千両の収入を上げていたようです。他の木よりも良質の実が多量に結実する変種が杉谷村で発見され、昭和35年（1960）、その「昭和福ハゼ」は、長崎県の天然記念物に指定されました。その和ろうそくを県下で唯一、郷土の伝統産業として根付かせようとしているところが、有明町の本多木蠟工業所です。

西洋ロウソクは吹けばすぐ消えますが、和ろうそくはゆらぎながらも少々の風では消えません。また、和ろうの用途は、ロウソクはもちろん、化粧品・薬・ボールペン・ピン付け油など多種多様にわたっています。

## ③ 郷土料理

### ア ガンバ（ふぐ）料理

ガンバ料理の代表格と言え「湯引き」と「ガネ炊き」です。「湯引き」は、厚切りにした身をさっと湯通しして、氷水で身を引きしめます。タレはダイダイ酢（なければポン酢）。薬味には地元で「フクシュ」と呼ばれるニンニクの茎のほか、梅干し、ネギ、モミジおろしなどを使います。「ガネ炊き」は余った骨の部分を使用します。通常の煮付けと違って、煮汁にそのまま浸けずに「乾煎り」するのがコツです。そのときに出るアブクが「まるで蟹のようだ」ということから名前が付い

たと言われています。炊き合わせの材料はタケノコやフクシュ、梅干しなどです。

#### イ ガネ（カニ）料理

「ワタリガニ」のことを地元では「ガネ」と呼びます。

調理方法はいたってシンプル。お湯を沸かしながら 20 分ほど茹でれば、極上の味ができ上がります。その際に注意しなければならないのは、しっかりと脚の部分にくくりつけておくこと。最初から熱湯に浸けないこともポイントです。甲羅に日本酒の熱燗を注ぎ込んでいただく「ツザケ」の味はまた格別。一杯目はそのまま。二杯目からは柿色がかかった「セキ」を溶かしながらいただきます。

#### ウ かんざらし

白玉粉で作った小さな団子を冷水で冷やし、蜂蜜、砂糖等で作った特製の蜜をかけたもの。島原城や市内の飲食店で食べられ、最終的な味付けはその店の秘伝。

浜の川湧水に隣接する「銀水」は、かつて「かんざらし」の名店として多くの著名人が訪れ、テレビ番組等で幾度となく紹介されたことで「かんざらし」の名前は一躍全国版となりました。

また、平成 30 年 2 月には、島原を舞台として NHK 長崎地域発ドラマ「かんざらしに恋して」が放送されています。

#### エ 具雑煮

島原郷土料理の代表格。正月の雑煮は各地で色々と違いますが、島原地方の雑煮は具だくさんで、山の幸、海の幸がいっぱい盛り込まれていて、豊かな島原の産物を集大成化したようなものです。また、一説には、その考案者は一揆軍の総大将、天草四郎時貞、とも言われています。

材料は、鶏肉、アナゴ、シロナ、レンコン、ゴボウ、凍り豆腐、椎茸、卵焼き、丸もち、春菊など十数種類。平成 19 年には、農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に卓袱料理と並び選定されています。

#### オ 島原手延べそうめん

島原の乱の後、瀬戸内海の小豆島などから移住してきた人々によって製造がはじまったとされています。手延べ素麺は小麦、塩、綿実油、水を原料として製造されます。熟成の時間も必要となるため、1 回の製造に 1～2 日かかります。厳選された小麦粉を用いるのはいうまでもありませんが、粉を見極め、その性質を最大限に生かしながら最高の状態のめんに仕上げていくのが伝統の技術です。

島原手延べそうめんの特徴は何といっても腰の強さです。夏の暑い日に食べる冷やしそうめんも最高ですが、地獄そうめんを作る時のように、煮込んでもなかなか煮崩れないのが自慢です。

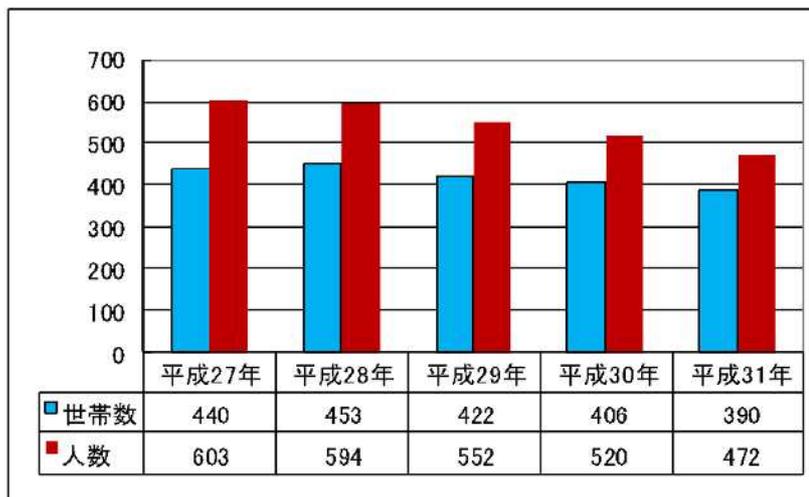
#### カ ろくべえ

かつて島原一帯が大飢饉に見舞われた際に、名主の六兵衛という人が考え出したとされる耐乏食です。暖かい気候の島原では早くから甘薯作りが盛んでした。それで凶作も乗り越えることができたそうです。原料のサツマイモの粉に、つなぎに粘性のある山芋を使用しています。見た目は太麺のソバのようですが、甘味があるのが特徴です。ダシはすまし汁で、ねぎや七味唐辛子をかけると美味しさが増します。

## 5. 社会福祉、保健、環境

### (1) 生活保護の状況

#### ① 生活保護世帯、人数の推移 (単位 世帯数：世帯、人数：人)



生活保護世帯は、前年より減少したが依然高水準となっている。無年金や低年金の高齢者の増加、長引く景気の低迷等による預貯金の減少等が要因にある。

#### ② 生活保護の実人数及び保護率の割合 (令和元年12月末)

	実人数(人)	半島における割合(%)	県における割合(%)	保護率(%)
島原市	476	33.4	1.7	1.09
雲仙市	598	41.9	2.2	1.43
南島原市	353	24.7	1.3	0.82
半島3市	1,427		5.1	1.11
長崎県	27,807			2.10

島原市は、長崎県内と比較すると、実人数に占める割合は約1.7%程度となっている。

### (2) 保育所・幼稚園の状況 (島原半島3市、令和2年1月1日現在)

	施設数(園)(※1)				半島での施設設置割合(%)	入園児数(人)				半島での入園児数割合(%)
	計	保育所	幼稚園	認定こども園		計	保育所	幼稚園	認定こども園	
島原市	26	20	0	6	30.2	1,983	1,359	0	624	35.9
雲仙市	28	21	0	7	32.6	1,811	1,154	0	657	32.8
南島原市	32	24	1	7	37.2	1,734	1,152	7	575	31.3
合計	86	65	1	20	100.0	5,528	3,665	7	1,856	100

半島3市の中で、島原市は、施設数が最も少ないが、入園児数は多い。

(※1) 施設数は、休園中の園を除く。(島原市：幼稚園2園、雲仙市：保育所1園)

(3) 医療の状況

① 医療施設（精神科病院及び一般診療所を含む）

	病院数	病院数の半島内割合(%)	病院病床数(床)	病床数の半島内割合(%)	人口対千人病床数(床)
島原市	49	39.2	1,329	48.9	30.5
雲仙市	40	32.0	799	29.4	19.1
南島原市	36	28.8	591	21.7	13.7
半島3市	125		2,719		21.2
長崎県	1,532		29,576		22.3

島原市の医療施設数（病院、病床）及び人口千人当たりの病床数は、半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの病床数については長崎県と比較しても多い。

② 医師数

	医師数(人)	医師数の半島内割合(%)	人口対千人医師数(人)
島原市	122	47.5	2.8
雲仙市	82	31.9	1.9
南島原市	53	20.6	1.2
半島3市	257		2.0
長崎県	4,300		3.2

島原市の医師数及び人口対千人当たりの医師数は、半島3市の中で最も多いが、長崎県と比較すると少ない。

③ 歯科医院・医師数

	歯科医院数	医院数の半島内割合(%)	歯科医師数(人)	医師数の半島内割合(%)	人口対千人歯科医師数(人)
島原市	28	37.8	41	39.8	0.9
雲仙市	23	31.1	35	34.0	0.8
南島原市	23	31.1	27	26.2	0.6
島原半島	74		103		0.8
長崎県	729		1,192		0.8

島原市は、どの項目も半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの歯科医師数については、県よりも多いことがわかる。

④ 薬剤師の状況

	薬剤師数(人)	薬剤師数の半島内割合(%)	人口対千人薬剤師数(人)
島原市	109	52.7	2.5
雲仙市	57	27.5	1.3
南島原市	41	19.8	0.9
半島3市	207		1.6
長崎県	2,925		2.2

島原市の薬剤師数及び人口対千人当たりの薬剤師数については、半島3市の中で最も多く、県と比較しても多いことがわかる。

(4) ゴミの状況(平成30年度)

	年間排出量(t) (※1)	一人1日当たり排出量(g)	リサイクル率(%) (※2)
島原市	19,474	1,177	19.7
雲仙市	15,360	953	14.4
南島原市	16,129	955	17.1
半島3市	50,963	1,028	17.1
長崎県	477,489	980	14.9

島原市のゴミの排出量は、半島3市の中では最も高い数値となっているが、リサイクル率も高い。

(※1) 年間排出量・・・可燃ごみ、資源・不燃ごみの合計

(※2) リサイクル率・・・廃棄物からの資源回収率のこと

## 6. 教育、文化

### (1) 小学校の状況

#### ① 学校数、児童数

	学校数	学校数半島内割合(%)	児童数(人)	児童数半島内割合(%)	人口対千人児童数(人)
島原市	10	21.7	2,311	34.6	52.5
雲仙市	19	41.3	2,202	33.0	51.7
南島原市	17	37.0	2,161	32.4	49.0
半島3市	46		6,674		51.0
長崎県	330		71,277		53.1

半島3市における、島原市の小学校数は一番少ないが、児童数は一番多い。

#### ② 教員数

	教員数(人)	教員1人当たり児童数(人)
島原市	176	13.1
雲仙市	223	9.9
南島原市	201	10.8
半島3市	600	11.1
長崎県	5,376	13.3

半島3市における、島原市の教員1人当たりの児童数は一番多い。

### (2) 中学校の状況

#### ① 学校数、生徒数

	学校数	学校数半島内割合(%)	生徒数(人)	生徒数半島内割合(%)	人口対千人生徒数(人)
島原市	5	25.0	1,129	34.0	25.6
雲仙市	7	35.0	1,076	32.3	25.3
南島原市	8	40.0	1,122	33.7	25.4
半島3市	20		3,327		25.4
長崎県	189		36,501		27.2

半島3市における、島原市の中学校数は一番少ないが、生徒数は一番多い。

#### ② 教員数

	教員数(人)	教員1人当たり生徒数(人)
島原市	94	12.0
雲仙市	106	10.2
南島原市	116	9.7
島原半島	316	10.5
長崎県	3,314	11.0

半島3市における、島原市の教員1人当たりの生徒数は一番多い。

(3) 高等学校の状況

① 学校数、生徒数

	学校数	学校数半島内割合(%)	生徒数(人)	生徒数半島内割合(%)
島原市	5	55.6	1,978	70.9
雲仙市	2	22.2	432	15.5
南島原市	2	22.2	379	13.6
半島3市	9		2,789	
長崎県	79		37,694	

半島3市における、島原市の高等学校数は一番多く、生徒数も一番多い。

② 教員数

	教員数(人)	教員1人当たり生徒数(人)
島原市	174	11.4
雲仙市	54	8.0
南島原市	53	7.2
半島3市	281	9.9
長崎県	3,171	11.9

半島3市における、高等学校教員1人当たりの生徒数は、一番多い。

(4) 特別支援学校の状況

	島原市	長崎県	県内割合(%)
学校数	1	18	5.6
児童・生徒数	137	1,665	8.2
教員数	89	1,078	8.3
教員1人当たり生徒数	1.5	1.5	

島原市には、特別支援学校が1校設置されている。

(5) 図書館の状況

① 図書館、図書室等及び登録者

	公立図書館数	公民館図書室等数	登録者数(人)	人口千人当たり登録者(人)
島原市	2	5	51,552	1,186.1
雲仙市	1	6	15,293	364.7
南島原市	6	2	22,972	530.1
半島3市	9	13	89,817	697.7
長崎県(※1)	37	145	592,668	446.5

(※1)長崎県は県立図書館を除く市町の分の合計

島原市は、図書館を2館設置しており、人口千人あたり登録者（該当市以外の住民を含む）については、半島3市の中で一番多い。

② 蔵書数、貸し出し冊数

	蔵書数	蔵書数半島内割合(%)	人口1人当たり蔵書冊数	年間貸し出し冊数	人口1人当たり貸し出し冊数
島原市	223,752	24.6	5.1	232,551	5.4
雲仙市	167,031	18.4	4.0	208,217	5.0
南島原市	519,235	57.1	12.0	382,328	8.8
島原半島	910,018		7.1	823,096	6.4
長崎県	5,841,058		4.4	7,028,076	5.3

(注:長崎県は県立図書館を除く市町分の合計)

島原市の人口1人当たり蔵書冊数及び貸し出し冊数は、長崎県と比較しても多い。

## (6) 文化財の状況

## ① 指定文化財の状況(平成31年3月末現在)

国指定文化財数	5
県指定文化財数	11
市指定文化財数	78

区別	種別	名称	所在	指定時
1	国 特別名勝	温泉岳	温泉岳国有林	昭和27年3月29日
2	国 天然記念物	普賢岳紅葉樹林	温泉岳国有林	昭和3年3月31日
3	国 天然記念物	野岳いぬつけ群落	温泉岳国有林	昭和3年3月31日
4	国 史跡	旧島原藩薬園跡	小山町4703	昭和4年4月2日
5	国 天然記念物	平成新山	三会・安中温泉岳国有林	平成16年4月5日
6	県 史跡	まだれいな銘キリシタン墓碑	山寺町 共同墓地	昭和2年11月8日
7	県 天然記念物	有明町の大樟	有明町大三東甲2114	昭和33年6月5日
8	県 天然記念物	熊野神社の大クス	杉山町	昭和35年7月13日
9	県 天然記念物	熊野神社の大ムク	杉山町	昭和35年7月13日
10	県 天然記念物	島原イチゴ自生地	南千本木町	昭和35年3月22日
11	県 有形文化財 (歴史資料)	混一疆理歴代国都地図	本光寺	平成11年2月17日
12	県 有形文化財 (歴史資料)	日本大地図3舗(一組)	本光寺	平成17年3月25日
13	県 有形文化財 (考古資料)	景華園遺跡出土の 一括遺物百二十二点	城内一丁目 島原図書館	平成18年3月3日
14	県 有形文化財 (工芸品)	刀 折返銘 神氣 附 本阿弥光温折紙一通	城内一丁目 島原城	平成19年8月31日
15	県 有形文化財 (典籍)	肥前島原松平文庫	城内一丁目 島原図書館	平成25年3月29日
16	県 史跡	島原城跡	城内一丁目1181-5ほか	平成28年2月28日

## 7. 市民生活

### (1) 居住、安全

項 目	数 値	単 位	備 考
消防団員数	626	人	平成31年4月1日現在
消防団員数 (人口千人当たり)	13.9	人	
年間出火件数	19	件	平成30年中実績

#### 【交通関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
交通事故発生件数	143	件	平成30年中実績 (雲仙市143件、南島原市91件)
交通事故発生件数 (人口千人当たり)	3.18	件	令和元年12月31日現在 45,000人
交通事故発生件数 (1日当たり)	0.39	件	

#### 【刑法犯関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
年間刑法犯認知件数	137	件	平成30年中実績 (雲仙市 67件、南島原市 77件)
刑法犯認知件数 (人口千人当たり)	3.04	件	令和元年12月31日現在45,000人 (平成30年「交通統計」)
刑法犯認知件数 (1日当たり)	0.38	件	

#### 【自主防災会関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
自主防災会数	226	団体	
自主防災会組織率	100	%	平成31年4月1日現在

### (2) 水道

(※平成31年3月末現在)

項 目	数 値	単 位	備 考	
給水人口	44,599	人	雲仙市 43,401人	南島原市 42,215人
給水率	99.3	%	99.6%	99.9%
年間給水量	6,115	千 $m^3$	5,928 <sup>千<math>m^3</math></sup>	5,271 <sup>千<math>m^3</math></sup>
年間給水量 (1世帯1日当たり)	855	ℓ	935 <sup>ℓ</sup>	829 <sup>ℓ</sup>

(3) 町内会・自治会

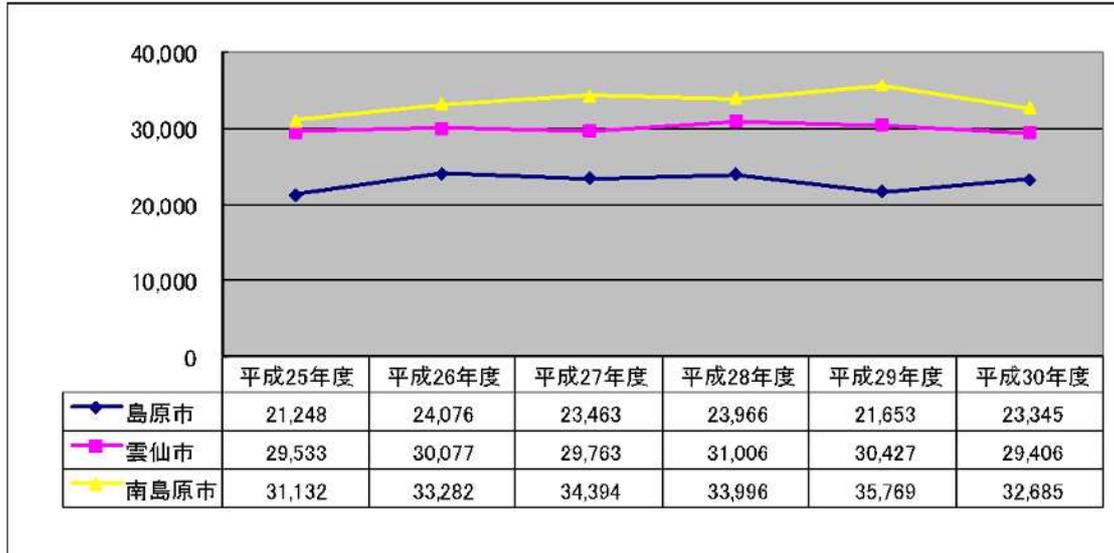
項 目	数 値	単 位	備 考
町内会・自治会数	226	団体	平成31年4月現在
集会施設数	112	館	
集会施設設置率	49.6	%	
町内会・自治会 加入世帯	13,322	世帯	令和元年5月現在
町内会・自治会 加入率	67.7	%	令和元年5月現在

## 8. 財 政

### (1) 島原市の歳入、歳出の状況

#### ① 歳入決算の推移

(単位:百万円)



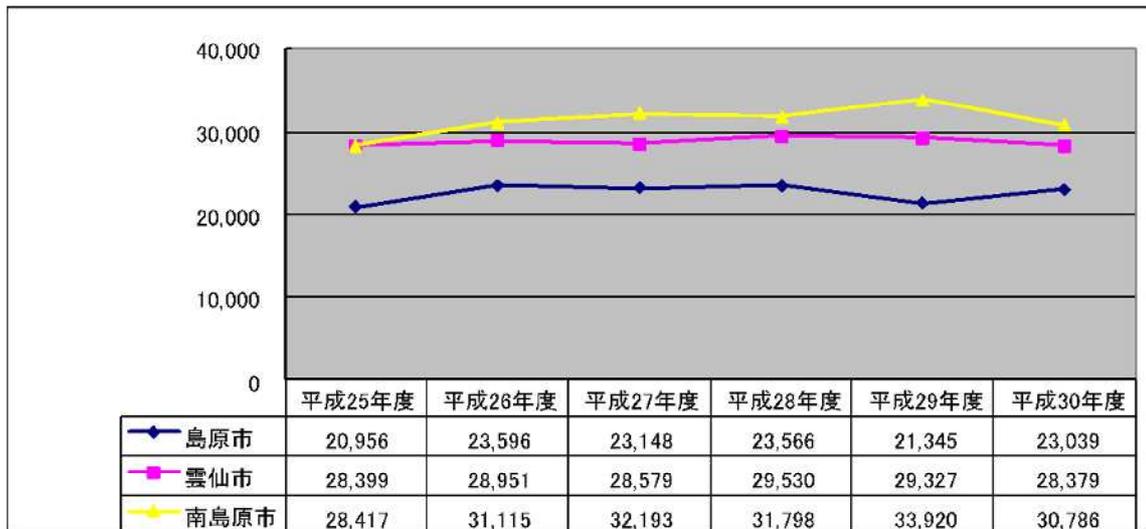
#### 【歳入決算の割合】

(単位:百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
県内市町	743,320	758,988	755,952	755,533	769,101	767,712
島原市の割合	2.9%	3.2%	3.1%	3.2%	2.8%	3.0%
半島3市	81,913	87,435	87,620	88,968	87,849	85,436
島原市の割合	25.9%	27.5%	26.8%	26.9%	24.6%	27.3%

#### ② 歳出決算の推移

(単位:百万円)



【歳出決算の割合】

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
県内市町	721,340	739,781	731,738	733,551	746,591	744,403
島原市の割合	2.9%	3.2%	3.2%	3.2%	2.9%	3.1%
半島3市	77,772	83,662	83,920	84,894	84,592	82,204
島原市の割合	26.9%	28.2%	27.6%	27.8%	25.2%	28.0%

【人口1人当たり歳出決算額】

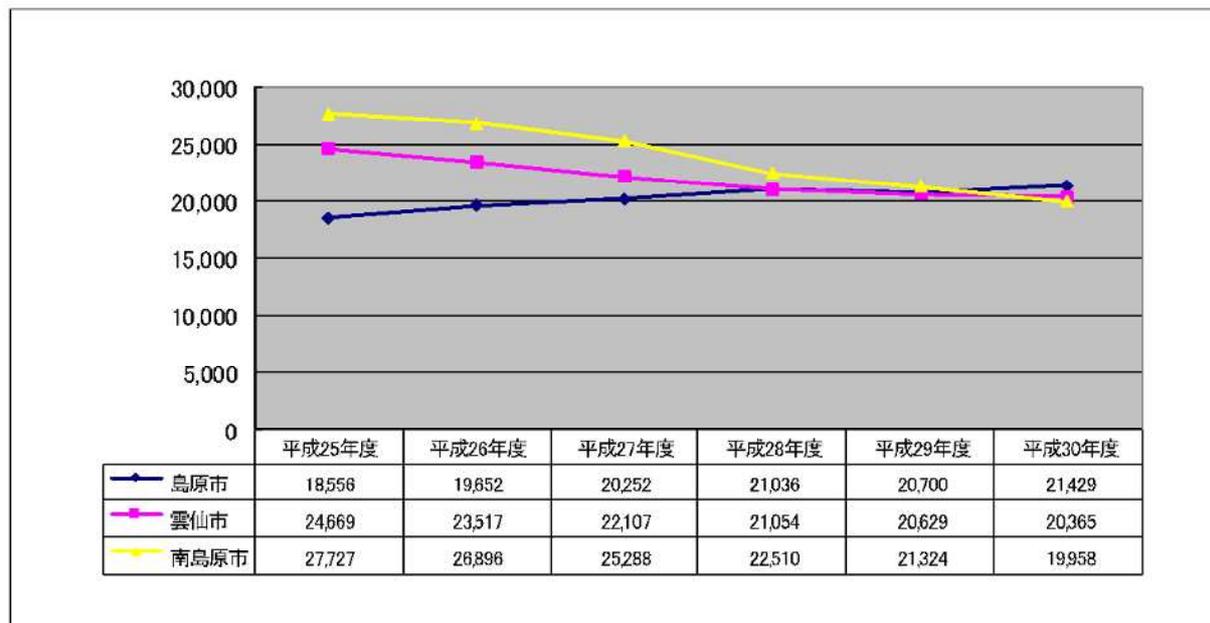
(単位：千円)

	歳出決算額
島原市	508
雲仙市	651
南島原市	674

(2) 島原市の地方債、積立金の状況

① 地方債現在高の推移

(単位：百万円)



【地方債現在高の割合】

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
県内市町	779,900	782,346	774,673	764,095	753,232	750,256
島原市の割合	2.4%	2.5%	2.6%	2.8%	2.7%	2.9%
半島3市	70,952	70,065	67,647	64,600	62,653	61,752
島原市の割合	26.2%	28.0%	29.9%	32.6%	33.0%	34.7%

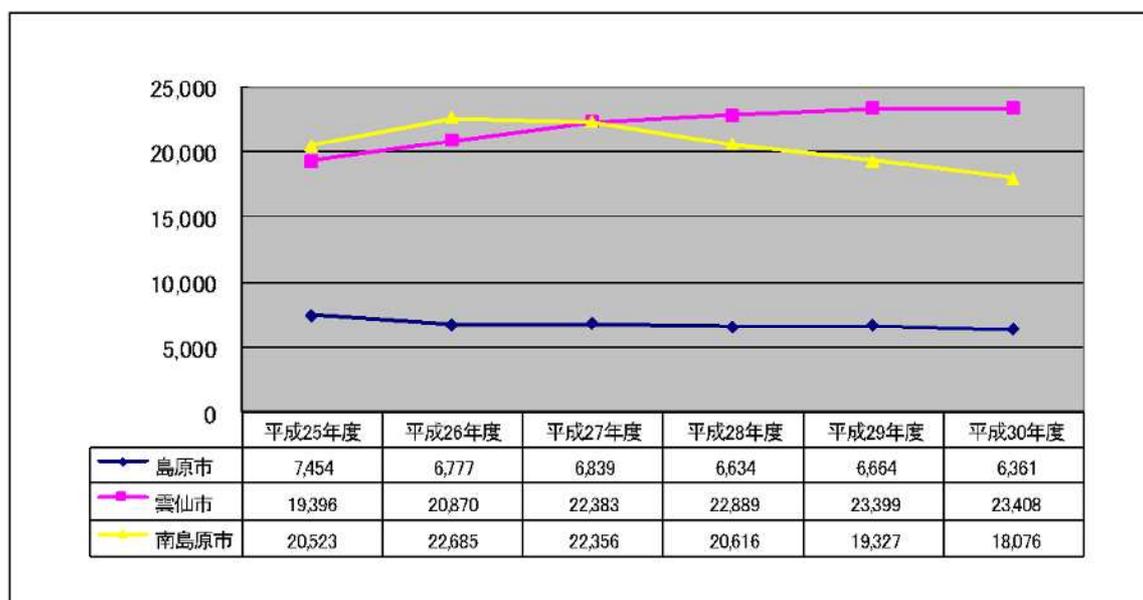
【人口1人当たり地方債現在高】

(単位：千円)

	地方債現在高
島原市	472
雲仙市	467
南島原市	437

② 積立金現在高の推移

(単位：百万円)



【積立金現在高の割合】

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
県内市町	223,173	237,186	256,365	264,757	264,190	259,994
島原市の割合	3.3%	2.9%	2.7%	2.5%	2.5%	2.4%
半島3市	47,373	50,332	51,578	50,139	49,390	47,845
島原市の割合	15.7%	13.5%	13.3%	13.2%	13.5%	13.3%

【人口1人当たり積立金現在高】

(単位：千円)

	積立金現在高
島原市	140
雲仙市	537
南島原市	396

(3) 各種指数

① 財政力指数

(単位：%)

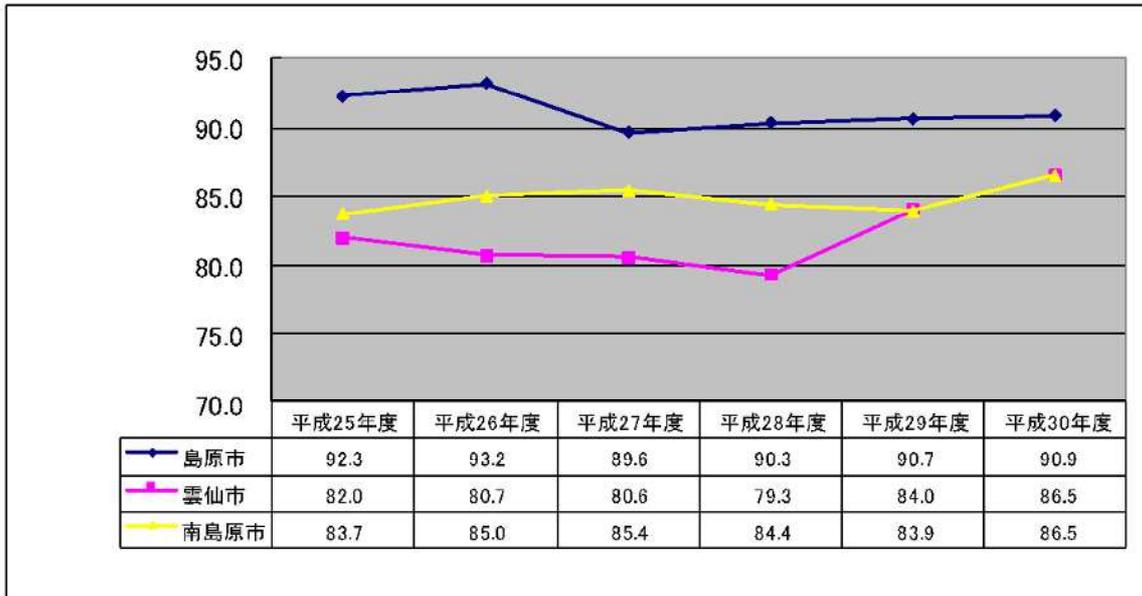


財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指標であり、自主財源の割合が高いほど数値が高くなるもので、財政力が強い団体となる。

島原市は、半島3市の中で最も高い数値を示している。

② 経常収支比率

(単位：%)

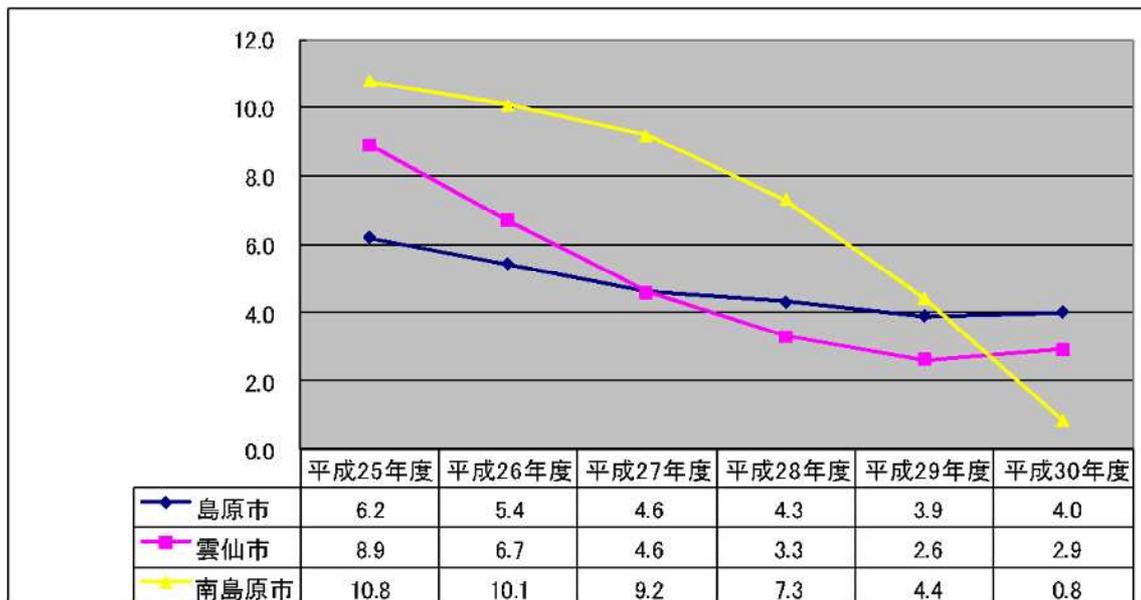


経常収支比率とは、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標であり、比率が高くなると弾力性を失いつつある状態となる。

島原市は、比率は高くほぼ横ばいの状態が続いている。

③ 実質公債費比率

(単位：%)

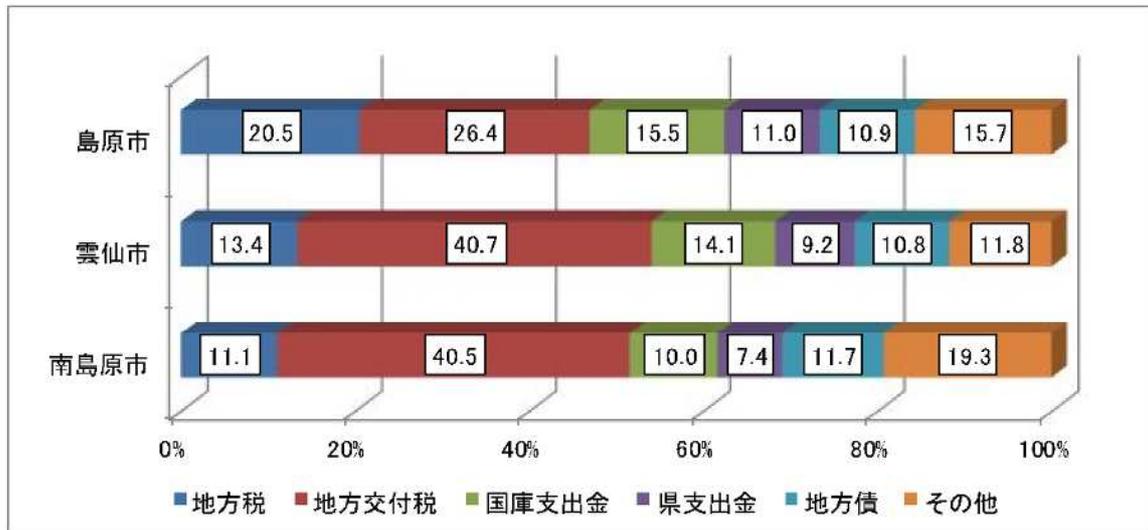


実質公債費比率とは、一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもので、率が低いほど健全といえる。

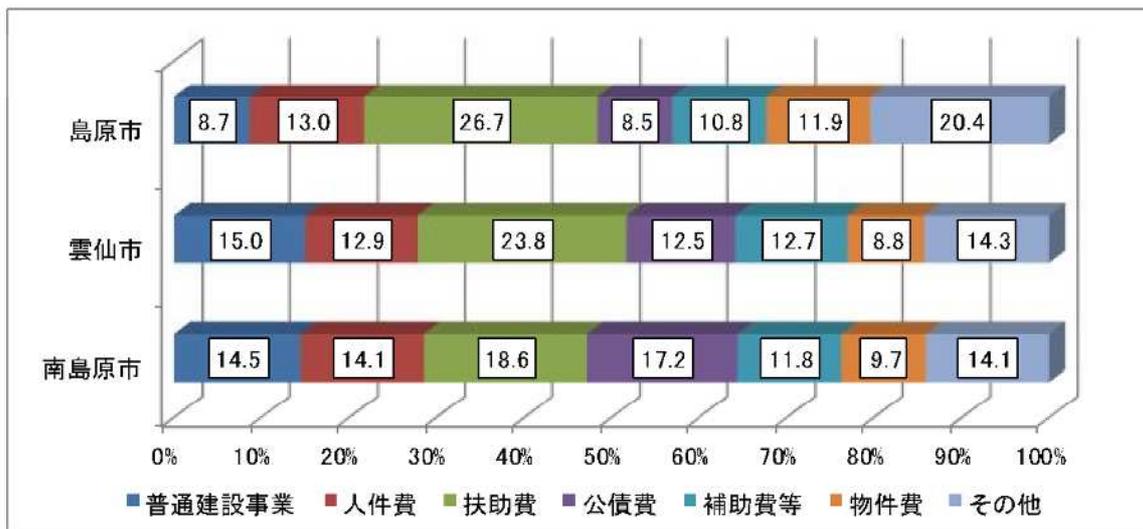
3市とも比率は減少傾向にある。

(4) 平成30年度決算内訳の比較

① 歳入決算



② 歳出決算



## 9. 市政の状況

### (1) 国、県の指定状況

#### ① 雲仙天草国立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園より」

昭和9年3月16日に指定された我が国最初の国立公園である。雲仙地域については雲仙火山のほぼ全域を含む我が国屈指の火山景観を中心としており、有明海とセットで大パノラマを楽しむことができる。

（面積）12,858ヘクタール（海域を除く）

#### ② 島原半島県立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園より」

昭和45年1月20日に県立自然公園に指定された。島原半島周辺の変化に富んだ海岸線と、雲仙天草国立公園の周縁部及び史跡を中心とし、千々石断層や愛野地峡の雄大な景観、雲仙火山の関係する溶岩円頂の猿葉山、眉山崩壊によってできた九十九島、火山性山麓扇状地の礫石原、百花台等の特徴的な景観が見られる。

（面積）1,835ヘクタール（海域を除く）

### (2) 今後予定されている大型事業

#### ① 島原城築城400年記念事業

1618年（元和4年）松倉豊後守重政が築城開始し、1624年（寛和元年）に7年の歳月をかけて築いたとされ、2024年に築城400年を迎える。

## ② 新庁舎建設整備事業

「市民の安全・安心を守り、島原らしい特性を生かした、コミュニティの中核としての庁舎」の基本理念のもとに現地建て替えによる整備を進めてきた島原市新庁舎が令和2年4月に落成します。

引き続き、旧庁舎の解体工事を行った後、国道側の外構工事（駐車場整備等）を行います。



## 10. 我がまち自慢

### (1) 島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの

- ① 白土湖  
日本で一番小さい陥没湖
- ② 平成新山  
日本で一番新しい山
- ③ 舞岳ふれあいロード  
8888段の遊歩道の段数は日本一
- ④ 水無川砂防事業  
全国初の無人化機械施工
- ⑤ ジオパーク国際ユネスコ会議（平成24年5月）  
島原復興アリーナをメイン会場として、日本で初めて開催
- ⑥ 火山都市国際会議（平成19年11月）  
アジア（日本）で初めての開催
- ⑦ 島原半島ジオパーク  
「日本ジオパーク」国内認定第1号（平成20年12月）  
「世界ジオパーク」国内認定第1号（平成21年8月）
- ⑧ 自衛隊災害派遣日数（雲仙・普賢岳噴火災害時）  
1,658日（平成3年6月3日から平成7年12月16日まで）は災害派遣としては過去最長。（※参考 第2位は、東日本大震災の174日）
- ⑨ だいごんの年間収穫量（平成29年）  
春だいごん・・・収穫量16,000トン是全国で第2位  
秋冬だいごん・・・収穫量17,100トンは全国で第4位
- ⑩ はくさいの年間収穫量（平成29年）  
春はくさい・・・収穫量12,900トンは全国で第2位
- ⑪ にんじんの年間収穫量（平成29年）  
春夏にんじん・・・収穫量10,900トンは全国で第3位  
冬にんじん・・・収穫量7,860トンは全国で第8位
- ⑫ 眉山  
日本三大難山の一つ（他は妙義山（群馬県）と茶臼山（長野県））
- ⑬ 旧島原藩薬園跡  
日本三大薬園跡の一つ（他は佐多旧薬園（鹿児島県）と森野旧薬園（奈良県））

⑭ 島原温泉

環境省・観光庁・内閣府・経済産業省が後援として実施されている全国コンテスト「温泉総選挙2018」で島原温泉が、「歴史・文化部門」で全国第1位に輝いた。

⑮ 島原市温泉給湯所

民間工場からの排湯を熱源とするヒートポンプ方式により、高度な複合熱利用システムを構築することで、CO2排出量を約1,001トン、年間68%、エネルギーコスト73%削減することに成功した。これにより「平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（対策技術先導導入部門）」を受賞した。

(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの

① 市制

長崎県内では市制施行3番目

昭和15年4月、長崎県下で3番目に市制を施行。平成27年4月1日で75周年を迎えた。昭和30年には三会村と、平成18年1月1日には有明町と合併し平成28年1月1日に10周年を迎えた。

② 鶏卵年間産出額（平成29年）

年間産出額 330 千万円は県下で第1位

③ 島原市島原湊

坂本龍馬長崎初上陸地

④ 豚の年間産出額（平成29年）

年間産出額 169 千万円は県下で第3位

⑤ えび類の漁獲量（平成29年）

年間漁獲量、141トンは県下で第1位

⑥ 島原守護神「しまばらん」

「ゆるキャラグランプリ2018」にて、全国10位。県下で第1位（3連覇）



### (3) その他

#### ① 島原新聞

全国でも2、3紙しかない100年以上続いている地方紙で、前身は明治32年、「開国新聞」という名で月3回発行され、戦時中は言論統制により「長崎日報」に統合されたが、昭和21年12月、再び「島原新聞」として復刊された。

島原新聞は100年余り、地元に着した紙面作りに徹し、島原地方の政治・経済・文化などが多く記載されており、近現代史料の宝庫となっている。

#### ② 島原鉄道

明治41年（1908年）5月創立

明治44年（1911年）開業「諫早－愛野間」

大正2年（1913年）開通「諫早－島原湊間」

島原鉄道の開業時の蒸気機関車は、鉄道院から譲り受けた鉄道院150型（1号機関車）。これは、日本で最初の鉄道開業のため輸入された第1号機で、歴史の教科書にも出てくる新橋－横浜間の鉄道開業に使用された機関車である。その後、昭和5年に鉄道省に返還、現在は、さいたま市にある鉄道博物館に展示され、国の重要文化財となっている。現在の1号機関車の左サイドタンクには、当時の植木元太郎島鉄社長直筆の「惜別感無量」の銘板が今も装着されている。

なお、植木元太郎氏は、島原市の初代市長を務められ、島原市霊丘公園内に植木氏の銅像が設置されている。